

第Ⅲ章 高校生の抱く家庭観



1. 結婚生活のスタート

お金がなくても 式だけはあげたい

「今は異性にもてないけれど、何年か後には、絶対恋愛をして、好きな人と結婚したい」と思っているのが、前章まででふれてきた高校生の心の内であった。そこで、この章では、彼らがあこがれている家庭生活とは、一体どういうものなのか、高校生たちの抱く家庭像を明らかにしていくことにしたい。

家庭生活は、結婚式から始まる。すでにふれたように、男子の97%、女子の96%という圧倒的に多くの生徒が恋愛結婚を望んでいた。運よく相思相愛の相手にめぐりあったとして、彼らは、どういった形の結婚式をあげようとしているのか。

表19によると、式をあげるのに必要な費用は自分たちで捻出したいが、親からの援助をあてにせざるを得ないだろうという。

表20は、「結婚費用が50万円しかないときど

のような結婚式をあげたいか」をたずねた結果を示している。「結婚式に使う」と答えたものが、男子52%、女子58%ともっとも多く、「新婚旅行に使う」のは男子32%、女子23%、「マンションの頭金や家具を買う」のは男子16%、女子19%となっており、結婚式を大事にしたいと答えた者が半数を越える。若い人たちのことゆえ、式はともかくとして、二人だけの新婚旅行を楽しみたいという回答がもっと多くなるのではと予想していた。しかし、みんなからの祝福を受けたいという気持ちが強いのであろうか、意外なほど、式をあげたいと考えている生徒が多いのが目につく。

表19 結婚式の費用

(%)

	全 部 親	ほとんど親	半 々	ほとんど自分たち	全部自分たち
男 子	7.1	27.4	23.6	27.2	14.7
	34.5			41.9	
女 子	5.3	34.6	26.3	23.5	10.3
	39.9			33.8	

表20 50万円の結婚費用をどう使うか

(%)

	男 子	女 子
結 婚 式 を 重 視	52.3	58.0
新 婚 旅 行 を 重 視	32.2	22.7
マ ン シ ョ ン の 頭 金 や 家 具 を 買 う	15.5	19.3

表21 新婚旅行はどうするか

(%)

	男 子	女 子
な ん と か ア メ リ カ か ヨ ー ロ ッ パ へ	15.5	10.2
ハ ワ イ ぐ ら い は	18.8	12.8
グ ア ム や 香 港 ぐ ら い は	19.2	20.3
無 理 を し て ま で 行 く 気 は な い か ら 国 内 旅 行	41.0	52.4
あ ま り 行 く 気 が し な い	5.5	4.3

表22 結婚したら生活費は月にいくら必要か

(%)

	男 子	女 子
10 万 円 未 満	16.0	14.0
11 ~ 15 万 円	30.5	25.1
16 ~ 20 万 円	30.2	36.2
21 ~ 30 万 円	16.9	21.5
31 万 円 以 上	6.4	3.2

次に、結婚式とあわせて新婚旅行の行き先をたずねてみた。表21がその結果である。ほとんどのものが恋愛結婚を望んでいる事実から、新婚旅行に対してはなかなか夢を持っているのではないかと予想していた。旅行業界には、ハネムーン・フライトとよばれる新婚旅行専用の便もあるし、ホテルなどの御婚礼パッケージには、ハワイやサイパンなどの海外旅行が含まれていることが多い。しかし、表21によると、高校生たちは、そうした社会風潮に染まらず、むしろ、堅実すぎる位の感じで、結婚生活のスタートを切ろうとしてい

る。

そうした堅実さは、オープンアンサーで尋ねた生活費にもあらわれており、高校生たちは、新婚生活に必要な費用は、15万円以下でもなんとかなるが、できることなら16~20万円欲しいと答えている。

表23 結婚後の奥さんの生活

(%)

	結婚したら 家庭に入る	子どもが生ま れるまで働く	子育てを終え たらまた働く	ずっと仕事を 持ちつづける
男子	58.8	24.4	9.5	7.3
女子	29.1	25.4	23.6	21.9

表24 結婚後の夫婦のタイプ

(%)

	夫 リード	互いに頼りあう	妻 リード	独立した生きかた
男子	28.5	58.3	3.0	10.2
女子	38.6	44.0	1.9	15.5

奥さんは 家庭にいて欲しい

このような形で、結婚生活のスタートを切った彼らは、その後についてどんな生活設計をたてているのだろうか。

表23は、「結婚後、奥さんはどんな生活をしたらよいと思いますか」と尋ねた結果を示している。表から明らかなように、結婚生活のあり方については、男女の間に大きな開きが認められる。まず、男子の場合、「出産まで働く」の24%を含めると、ほぼ8割が専業主婦のいる家庭を望んでいる。結婚するからには、奥さんに家を守っていて欲しいというのであろう。それに反し、女子は、「すぐ家庭に入る」から「仕事をもち続ける」までが、ほぼ4等分され、その中でほぼ半数——子育てを終えるまで家庭にいるを含めると8割——が、専業主婦としての生活を考えている。

男子の場合、奥さんが家にいてくれれば、なにかと便利であろうから、専業主婦を望むのは分かる。しかし、女子にとって、家庭に入るのは、相手につくす生活となるから、そうした生き方に反発する生徒がいたとしても当然であろう。しかし、職業と家庭との両立を考える生徒が、22%にとどまったのは予想外の数値であった。

ここで、女子の中で、専業主婦へあこがれ

を抱いているのが、どういう属性の持主なのか問題になる。しかし、そうした属性分析はのちにゆずり、もう少し、結果の紹介を続けたい。

表24によると、結婚後の生活で、ほぼ半数の生徒が「互いに頼りあって」暮らしていきたいと答えている。もっとも、女子の39%は、夫がリードする生活を望み、それに対し、男子で、夫のリードを考えているのは29%にすぎない。そして、頼り合う生活の方がよいと答える者の割合は、女子より14%ほど多い。

つまり、二人で頼り合う生活を送りたいと考えている点では共通しているが、女子の方がいく分、夫のリードを求める割合が高く、それに対し、男子は、自分のリードに自信を持っていないのか、互いに頼り合う方が望ましいと答えている。いずれにせよ、女子は夫の、そして、男子は妻の存在をあてにしており、そうした意味では、男女ともに、依存度の高いマイホームを考えているといっても過言ではない。——そうした考え方を裏づけるように、男女ともに、「夫と妻とが独立した生き方をする」夫婦を望ましいと思う割合は1割を上回る程度にすぎない。

表25 両親の夫婦のタイプ

(%)

	夫 リード	互いに頼りあう	妻 リード	独立した生きかた
男子	36.9	36.9	18.0	8.2
女子	36.8	35.0	19.7	8.5

図28 離婚するか(子どもがいない場合)

(%)

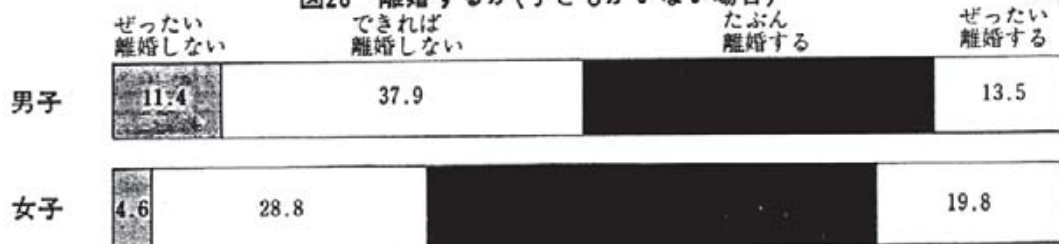
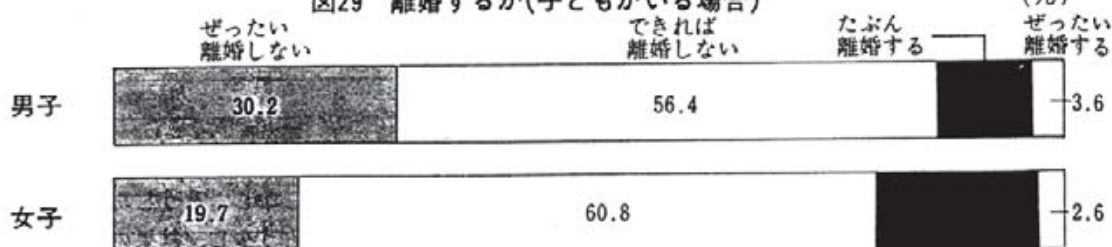


図29 離婚するか(子どもがいる場合)

(%)



なお、図28は、「相手とどうしても性格が合わなくなった」場合、子どもがいなかったら、別れるかどうかを尋ねた結果である。男子の51%、女子の67%は、離婚するだろうという。少なくとも、現在の高校生たちは、子どものない内なら、一度結婚したからといって、性格の合わない相手と一生つれそわねばならないとは考えてないように思える。そんな人と別れて、また出直すのも良いというのであろうか。

しかし子どもが生まれた後には、状況が変わる。図29のように、離婚を考えるのは1～2割にすぎず、その他の者は、子どものためにがまんするだろうと答えている。さしずめ、現代版・子はかすがいというところであろう。

今まで、高校生たちの抱いている家庭像をかけ足の形で概観してきた。すでにふれたように、彼らは、①きちんとした式をあげ、②無理のない程度で、国内の旅行をし、③月額15万円位の生活費で、④互いに頼り合いなが

ら、⑤専業主婦のいる家庭を築きたいと考えている。

マスコミなどで、若者たちの無軌道ぶりが報じられることが多い。そうした情報とは対照的に、じみで、まじめすぎる位にまじめな家庭像である。異性との関係についても、第1章でふれたように、むしろブアー(貧しい)といえる状況があった。それと同じように、マスコミで報じられる高校生の姿は、ほんの一握りの目につきやすい逸脱行動であり、その他の生徒たちは、堅実な家庭生活を目指しているように見える。

しかし、堅実さを感じる反面、若者らしい勇気が感じられないのも事実である。そこで以下この章では、新婚旅行から帰ったあとの家庭生活を掘り下げていくことにしたい。

2. 結婚後の暮らし方

第I章では、異性との交際の実態から結婚についての夢までを追って報告した。いろいろな形で異性との交際を望んでいながら、現在交際を続けている生徒は全体の16%に過ぎないという点をはじめ、予想外に消極的な高校生の姿がそこに見られた。結婚についても

夢を抱くというより、むしろ現実的な反応が多かったようである。そうした彼らは、夫婦になった後、どのような家庭生活を送ろうとしているのであろうか。家庭生活での役割の分担を中心に考察を進めてみよう。

夫に手弁当を持たせたい (持っていきたい)が86%

まず、図30をごらんいただきたい。これは、「あなたが将来結婚したら、どんな暮らし方をしたいと思っていますか」と結婚生活についての希望をたずねた結果である。①～⑭までの項目それぞれがa)とb)の対になっており、「ぜったいa)」から「ぜったいb)」までの4段階で答えてもらったものについて反応の偏りが大きい順に図示している。①「夫の昼の食事」は「お弁当をもたせたい(もっていく)」というものが「ぜったい・まあ」をあわせて86%にもものぼり断然トップ、以下同様に⑭「二人で街を歩くとき」まで続いている。

この結果を概観して気がつくのは、高校生たちの家庭観が、予想以上に現実的という事実であった。どうしてそうした印象を受けるのか。図中の反応を3つにカテゴライズして考えてみたい。

1) 伝統的な性的分業意識を肯定している。=結婚したら、夫の姓を名のり(③84%)、妻は家庭に入り(⑪75%)、家事に専念する(⑩75%)。仕事とあれば、夫も、日曜日に外出してもよい(⑦80%)。

2) マイホーム的な家庭を築こうとしている。=できるだけ早く(⑬65%)、1～2人の子を産み(⑨77%)、お互いをパパとママと呼びながら(②84%)、外出を控え(④83%)、夫と妻とで(⑤83%)、きびしく(⑬70%)子どもをしつけていききたい。妻は夫の弁当を作り

(①86%)、夫も妻の発熱の時には会社を休んで看病をする(⑩61%)生活である。

3) できることなら、まわりの人たちとも協力していききたい。=親との別居が望ましいのはたしかだが(⑯58%—同居してもよいが、4割を越えているのに注意して欲しい)、親類とも(⑧79%)、近所の人とも(⑫74%)親しくつきあっていくつもりだ。そして、ベアルックをきて腕をくんで町中を歩くつもりはない(⑳53%)

正直なところ、20の項目についての反応は、上述のように、「結婚した後も、異性とのつき合いは可能だ」(⑬68%)を除くと、むしろ常識的で、結婚生活を10年ほど体験した30代の夫婦の反応でもあるかのような印象を受ける。

今から10年ほど前、南こうせつとかぐや姫の「神田川」や小坂明子の「あなた」などが流行した時代があった。たとえ、貧しい生活でも、愛さえあれば明るく生きていけると歌いあげたもので、正直なところ、そうした歌を耳にして、若者たちの関心が、小さな四畳半的な世界に矮小化されているのを感じた。若い内から、二人だけの世界に閉じこもらなくても、その他の可能性があるのにという気持ちである。しかし、今回の結果についても、「神田川」的な視野の狭さを感じずにはいられない。

図30 結婚後の暮らし方 (%)



考えてみると、第二次大戦後の家庭作りは、戦前の家庭を否定することから出発していた。「封建的」——という言葉が流行した——な家族制度の殻をつき破って、「民主的」——この言葉を使うと、免罪符を得たような思いがした——な家庭を作ろう、が社会的な風潮になった。そのため、家庭作りにあたって、これまでの家庭と違ったものを築こうとする意欲がみなぎっていたような気がする。

しかし、戦後30年を経て、家庭作りに現状

打破的なイメージを持つ必要が薄れ、現状をふまえて、そうした基盤の上に、自分たちなりの理想を具体化する形での家庭作りが進み始めたのであろうか。

しかし、男性はともあれ、女性たちは、家庭が自分たちの根城になるだけに、もうすこし理想を求めるような家庭観を持っているのではないだろうか。そこで、性差に着目して、図30に紹介した項目を見直すことにしたい。

表26 結婚後の暮らしかた [夫婦] (%)

a)		ぜったい	まあ	まあ	ぜったい	b)
①姓	♂	57.8	26.4	11.7	4.1	(どちらでもよい)
(男性の姓)	♀	54.0	28.7	12.7	4.6	
②住居	♂	31.6	49.4	15.9	3.1	(マンション)
(郊外の庭つき)	♀	24.8	54.4	17.9	2.9	
③妻の生活	♂	38.2	46.4	12.8	2.6	(妻も仕事を)
(妻は家庭に)	♀	21.5	41.4	27.1	10.0	
④夫の昼食	♂	28.4	51.9	16.2	3.5	(外食)
(手作り弁当)	♀	39.8	52.6	6.6	1.0	
⑤親との関係	♂	23.6	34.6	34.7	7.1	(同居)
(別居)	♀	23.9	33.0	39.0	4.1	
⑥親せきつきあい	♂	21.3	55.2	18.8	4.7	(年賀状程度)
(親しく)	♀	23.3	59.3	15.0	2.4	
⑦近所つきあい	♂	19.2	49.8	25.4	5.6	(あいさつ程度)
(親しく)	♀	26.4	53.8	17.6	2.2	
⑧妻が発熱	♂	26.5	43.5	24.3	5.7	(仕事に出かける)
(会社休む)	♀	12.7	36.9	40.5	9.9	
⑨日曜の仕事	♂	18.7	57.7	17.2	6.4	(断わる)
(出かける)	♀	15.5	68.6	13.2	2.7	

結婚をしたら、 妻は家庭に 入ってほしい

表26に結婚後の夫婦のあり方についてたずねた結果を示した。

1) 男子と女子との間の差の認められない項目=夫の姓を名のり(①)、親と別居しつつ(⑤)、親類とも親しく(⑥)つき合う。

2) 男子の方が大事にしている項目=妻は家庭にいて欲しいか(③)、病気の時などは、会社を休んでも看病するつもりだ(⑧)。

3) 女子の方が大事にしている項目=夫に弁当を持たせたいし(④)、近所とも親しくつきあいたい(⑦)。

表27 結婚後の暮らしかた 子ども

(%)

a)	ぜったい	まあ	まあ	ぜったい	b)
①子どもの数 (1~2人でよい)	♂ 28.6 ♀ 33.1	49.0 43.8	17.9 18.1	4.5 5.0	(4~5人欲しい)
②生む時期 (早く生み育てる)	♂ 13.6 ♀ 19.4	45.9 51.3	34.1 24.1	6.4 5.2	(ゆっくり生む)
③出産後の二人の外 出 (控えたい)	♂ 21.0 ♀ 25.3	62.1 57.8	13.3 14.1	3.6 2.9	(外出したい)
④お互いの呼び名 (パパ・ママ)	♂ 28.9 ♀ 33.6	55.4 50.4	13.1 19.3	2.6 2.6	(ニック・ネームなど)
⑤子どものしつけ (夫と妻とで)	♂ 36.0 ♀ 58.6	40.0 31.8	8.0 20.8	4.7 1.6	(妻にまかせる)
⑥子どものしつけ (厳しく)	♂ 33.1 ♀ 31.3	37.0 38.7	20.8 23.0	9.1 7.0	(自由に)
⑦出産後、二人で歩 くとき (ベア・ルックはきない)	♂ 11.0 ♀ 11.6	44.7 38.4	36.4 39.4	7.9 10.3	(ベア・ルックで腕くむ)

男子も女子も、妻が家庭に入り、夫が仕事優先の生活をするという性差に対応した分業の形態を前提としながら、男子は、女子が望む以上に、いざとなれば、妻の看病のために会社を休むといい、女子も、男子が考えている以上に、夫には手弁当を作ってあげたいと思っている。つきつめていくと、周囲の人々と協調しつつ、相手につくす家庭像である。

第二次大戦後に限っても、女性のしあわせは家庭にあるのかという疑問は、折りあるたびに、くり返し提起され続けてきた。そして、女性たちの現実の姿はともあれ、家庭以外の場に生きがいを求めようとする動きは、一層の強まりを示している。しかし、表26によれば、「まあ」を含めると、男子の85%はともかくとして、女子の63%も「結婚したら、妻は家庭に入った方がよい」という考え方を肯定している。

高校生たちの場合、これから家庭を築くので、家庭に対する夢を強く抱いているのであろうが、それにしても、彼らのマイホームにかかる期待の大きさは、予想を上回るものであった。

それでは、子どもが生まれたあとの生活について、男女差が認められるのであろうか。表27は、図30の中から子ども(育児)に関する項目を拾い出し、男女別に集計結果を示したものである。ここでも、ほとんど男女差は見られない。②「早く生んで若いうちに育てよう」や⑤「子どものしつけは夫と妻とで」といった項目でやや女子の方が肯定率が高くなっている程度である。

少なく生んで、早く育ててしまおうというあたりに、現代的な面ものぞかれるが、全体として、子育ての期間には子ども中心の生活をしていこうという堅実さが目につく。例えば、子どもが生まれたら、③「なるべく夫婦だけの外出は控え」、④「お互いにパパ・ママ」と呼びあって、⑤夫婦そろって子どもをしつけ、⑥小さいころに厳しくきちんとしつけてしまう。⑦「二人で街を歩くとき」も、親になればベア・ルックを着たり、腕組みしたりはもうしないだろう」が、その一例である。子どもが生まれたら、夫婦としての甘さをすてて、親としてしっかりと子育てをしていこうという心構えが、男女ともに認められるのである。

ニューファミリーという言葉がマスコミを

賑わせたことがあった。子どもと3人で、ベア・ルックを着こみ、ドライブでも楽しみながら、友だちのような親子関係を作る。ニューファミリーには、そうした響きが含まれていたように思う。しかし、先ほどのデータによると、高校生たちの反応に、ニューファミリーのかけらすら感じられず、むしろ、古風なまでの親子関係を築こうとする気配が認められる。中でも、子どもをきびしくしつけたいと思う生徒が、男女とも70%に達したのは予想外の結果であった。しつけが甘いといわれる現代の家庭に対する子どもからの批判が、こうした形であられたのであろうか。高校生たちが、どういう気持ちから子どもをきびしくしつけたいと答えたのか、彼らの心の内を知りたいと思った。

表28 将来の家庭での家事分担 (%)

	妻が全部	妻ほとんど夫がたまに	妻だいたい夫もかなり	夫と妻と半々	夫がほとんどする
①朝食作り	73.1 —— 93.9 —— 20.8		4.2	1.5	0.4
②洗濯物を干す	70.7 —— 91.3 —— 20.6		6.2	2.0	0.5
③夕食後の食器洗い	59.1 —— 85.3 —— 26.2		9.6	4.3	0.8
④夕食作り	55.8 —— 86.0 —— 30.2		10.2	3.4	0.4
⑤食後お茶をいれる	55.0 —— 79.5 —— 24.5		10.4	8.9	1.2
⑥夕食の買物	42.0 —— 74.5 —— 32.5		17.3	7.6	0.6
⑦風呂掃除	27.3 —— 50.1 —— 22.8		17.7	15.8	16.4

3. 家事の分担をめぐる

家事は妻まかせの生活

今までふれてきたように、高校生たちは、

性差に対応した役割の分化を肯定し、そうした基盤の上に、自分たちのマイホームを築こうとしている。

しかし、高校生の反応であるから、彼らは、家庭生活を夢みているのであって、現実的な見通しを欠くとも考えられる。そこで、もう少し具体的に、簡単な家事の項目を提示して妻と夫とがどの程度、そうした仕事を分担したらよいかを尋ねてみた。表28に示した通り、「朝食作り」から「夕食作り」、そして、「夕食の買物」までの上位6項目については「妻がほとんど、または、全部する」家庭を築くと答えている。夫が手伝うのは、風呂の掃除くらいという反応である。

このところ、「君子は厨房に入らず」という慣習を破って、料理に腕をふるう男性が増加している。「権流クッキング」で知られる権一雄氏、「男のだいでこ」の萩昌弘氏、あるいは、趣味がこうじて、レストランの経営者となった金子信男氏らが、その一例であろう。

君子は厨房に入らずという訓えは、士族と民衆の二つにそれぞれのルーツを見出されるといわれる。士族層の場合、嫡男を通しての家督相続が行われたので、女子の権限はきょくたんに制約され、子を生み育てるのが、女子の本務となった。そうした中で女子のしつけの基本原則である四徳——婦徳(女性らしい徳行)、婦言(言葉づかい)、婦容(身だしなみ)、婦功(家事)——の最下位に「婦功(工)」が位置していることから明らかなように、士族層では、婦徳がもっとも重んじられ、家事能力は、かならずしも必須の能力ではなかった。しかし、民衆の家庭では、主婦権の名が残されている通り、家政のきりもりは主婦の権限をシンボライズするものであった。自給自足の生活を基準とする当時において、特に、冬場の長い東北や日本海地方では、主婦のきりもり力は、一家の生死の鍵を握るといっても過言ではなかった。そうした背景から、男子は農

作業などの家業の責任を持ち、女子は家政をつかさどるという形で、分業の形態が定着したといわれる。

性に対応した役割の分化が、そうした社会的な必要性に支えられていた時代はともあれ、現代では、家庭電化製品の普及や家事の合理化などにより、家事に求められる労働力は軽減され、そうした動向が、女性たちの家からの解放を可能にしたといわれる。少なくとも、出産や育児などと比べ、家事は、かならずしも、女性のみが担うものでなくなりつつある。したがって、家庭のあり方が変化するとするならば、出産や育児の面より、家事の面で、変革が生じやすいと考えられる。

もちろん、男子たちは、家事をしてもらう方であるから、「妻が、主として家事を担って欲しい」と思うのが当然であろう。しかし、女子生徒たちは家事や育児で自分の一生を終わらせたくないという気持ちから、夫の家事協力を望むのではない。また、同じ人間として生まれながら、女子だけが家事をしなければならないのは不合理だ。男子も手伝うべきだ。そうした気持ちから、夫の家事協力を望む割合が、女子の方に高いのではと予想していた。

しかし、表29に掲げた通りに、家事分担についての意識に、性差はほとんど認められなかった。というより、⑥の夕食の買物や⑦の風呂掃除、③夕食後の食器洗いを除くと、①の「朝食作り」、②「洗たく物をほす」、④「夕食作り」、⑤「食後のお茶を入れる」などの面では、「妻が全部やる」生活を肯定する割合が、女子の方に高まっている。したがって、単純に結論づけると、女子の方が、家事をやりたがっていることにもなる。

表29 将来の家事分担（男女別）

（％）

		妻が全部	妻はほとんど夫がたまに	妻がしたい夫もかなり	夫と妻と半々	夫がほとんど
①朝食作り	♂	70.6	23.3	4.5	1.2	0.4
	♀	76.5	17.7	3.8	1.7	0.3
②洗濯物を干す	♂	67.8	22.9	6.9	2.0	0.4
	♀	74.2	17.9	5.4	2.1	0.4
③夕食後の食器洗い	♂	59.6	26.8	9.1	3.7	0.8
	♀	58.7	25.4	10.3	5.0	0.6
④夕食作り	♂	55.5	30.1	10.7	3.2	0.5
	♀	56.1	30.3	9.6	3.7	0.3
⑤食後にお茶をいれる	♂	51.9	26.1	11.1	9.4	1.5
	♀	58.5	22.8	9.8	8.2	0.7
⑥夕食の買物	♂	44.1	31.8	16.9	6.4	0.8
	♀	39.8	33.2	17.8	8.9	0.3
⑦風呂掃除	♂	30.8	24.2	16.6	13.8	14.6
	♀	23.6	20.9	18.9	18.2	18.4

共働きでも 家事は妻に

しかし、そうした結論を引き出す前に、やや別の角度からの考察を進めてみたい。

現代の家庭は、大別すると、共働きと専業主婦のいる家庭とに分かれよう。後者の場合、夫が社会へ出て取入をかせぎ、妻は家庭の中を守るという性に対応した役割分担形態がとられているので、たてまえからいうと、家事は妻の守備範囲であり、夫の協力を望めなくともやむをえないとも考えられる。しかし、共働きの場合は、夫婦がともに働く形態であるから、家事の分担も、当然のことながら、夫婦で協力するのが、ものの道理というものであろう。

したがって、先ほどから紹介してきた結果も、生徒たちが専業主婦のいる家庭をイメージにおいて考える限りにおいては、それほど無理な感じ方ではないのかもしれない。

そこで、「妻が家事を担うべきだ」という気持ちがあるが、専業主婦の場合に限られているかどうかをたしかめるために、専業主婦のいる家庭と対照的な、共働きの家庭を想定させて、

そうした家庭での家事のあり方を尋ねることにした。設問文は、以下の通りである。

専業主婦

夫が28才のサラリーマン、妻が25才の専業主婦で子どもがいない場合

共働き

夫28才、妻25才で、2人とも教員をしている場合

表30は、それぞれについての家事分担の予測をまとめたものであるが、専業主婦に比べれば、共働き夫婦の場合、やはり夫も手伝うようになるだろうという傾向は見られる。しかし、夫婦がともに同様の職業を持っていると仮定したにもかかわらず、「家事は妻がやるもの」という大前提は崩されていない。すなわち、共働きの場合でも、朝食作りや洗濯物を干したりといった仕事は妻が全部やるという生徒が半数くらいに達しており、「ほとんど・だいたい妻がやる」まで含めると、上位6つの項目については8割～9割にも達する。

表30 夫の家事分担 ～共働きと専業主婦の比較～

(%)

		妻が全部	妻がほとんど 夫がたまに	妻がだいたい 夫もかなり	夫と妻と半々	夫がほとんど する
①朝食作り	専業	75.4	20.6	2.6	0.9	0.5
	共働き	51.9	25.5	14.7	7.5	0.4
②洗濯物を干す	専業	76.3	18.4	3.6	1.1	0.6
	共働き	47.6	26.9	17.1	7.5	0.9
③夕食後の食器 洗い	専業	65.4	24.7	6.4	2.8	0.7
	共働き	37.5	27.7	21.0	12.4	1.4
④夕食作り	専業	63.0	29.1	6.2	1.3	0.4
	共働き	36.0	32.8	22.4	8.4	0.4
⑤食後にお茶を 入れる	専業	59.9	24.9	7.9	6.3	1.0
	共働き	37.0	26.2	18.7	16.2	1.9
⑥夕食の買物	専業	51.6	33.1	11.1	3.8	0.4
	共働き	25.3	28.6	26.7	18.1	1.3
⑦風呂掃除	専業	32.5	25.5	16.1	14.4	11.5
	共働き	13.5	19.1	21.3	25.3	20.8

正直なところ、調査票の作成にあたり、「この程度の家事なら男性でも十分に分担できるであろう」と思われる項目を意図的に選んで生徒たちにたずねたつもりであった。したがって、食事についての設問でも、料理の名前——たとえば、ハンバーグやみそ汁等——を尋ねないようにしたし、「アイロンをかける」や「家計簿をつける」なども省略してある。しかし、この程度でも、そうした仕事は、妻が担うべきものという観念が根強い。

家事はすべて妻がする と考えているのは26%

若い人たちのことゆえ、もしかしたら家事は男女で分担しようと考えているのかと思っていた。それだけに性差に対応した役割の分業を受容している事実におどろき、そうした背景を探ることにした。具体的な手続きとしては、表30の中から、夫が協力する割合の高い「風呂掃除」(⑦)を除いて、「朝食作り」(①)から「夕食の買物」(⑥)までの類点を加算してみた。

結果は、図31に示した通り、「すべて妻がやる」のA群から、「夫もかなり手伝う」までのD群までに分れた。さらにいえば、A群は、6つの項目すべてについて、「すべて妻がやるべきだ」と強い分業意識を持つグループである。ついで、B群は、項目得点(尺度の下にある数字)を加算した合計点が7点から9点なるグループ、つまり6項目のうち3つ以上の項目が「すべて妻まかせ」で、他の項目が「夫もたまに手伝うこともある」と答えている生徒のグループ。C群は、合計得点が10点から12点のグループであるから、B群の逆に、「妻がほとんど、夫もたまに手伝う」という項目が4つ以上、その他の項目が「すべて妻まかせ」と答えている生徒のグループとなる。そして、最も夫の分担率を多く予測しているD群となり、合計13点から36点の生徒が一括されている。6項目の中に、1つでも「妻がだいたいやるが、夫もかなり手伝う」と答えている項目があり、他が「妻がほとんど夫がたまに」であればD群となる。

図31 家事分担のグループ分け

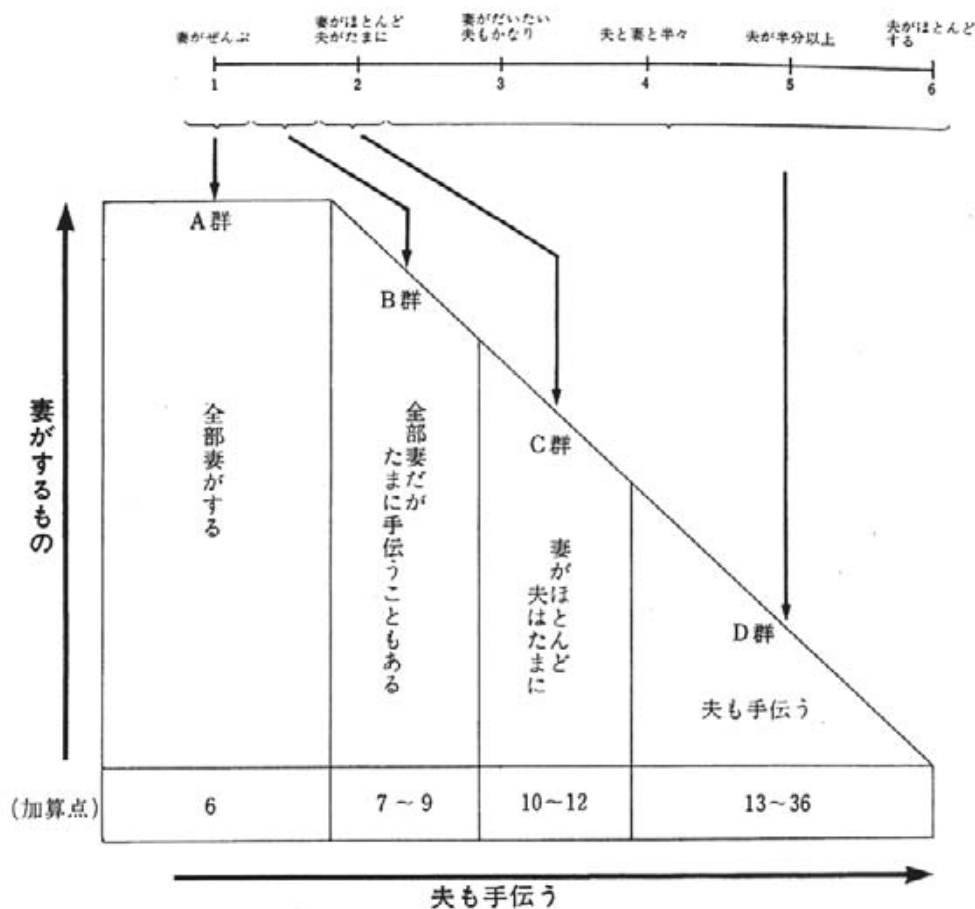


表31 A～D群の出現率 (%)

	A 群	B 群	C 群	D 群
男子	28.5	29.0	23.7	18.8
女子	23.5	37.0	22.0	17.5

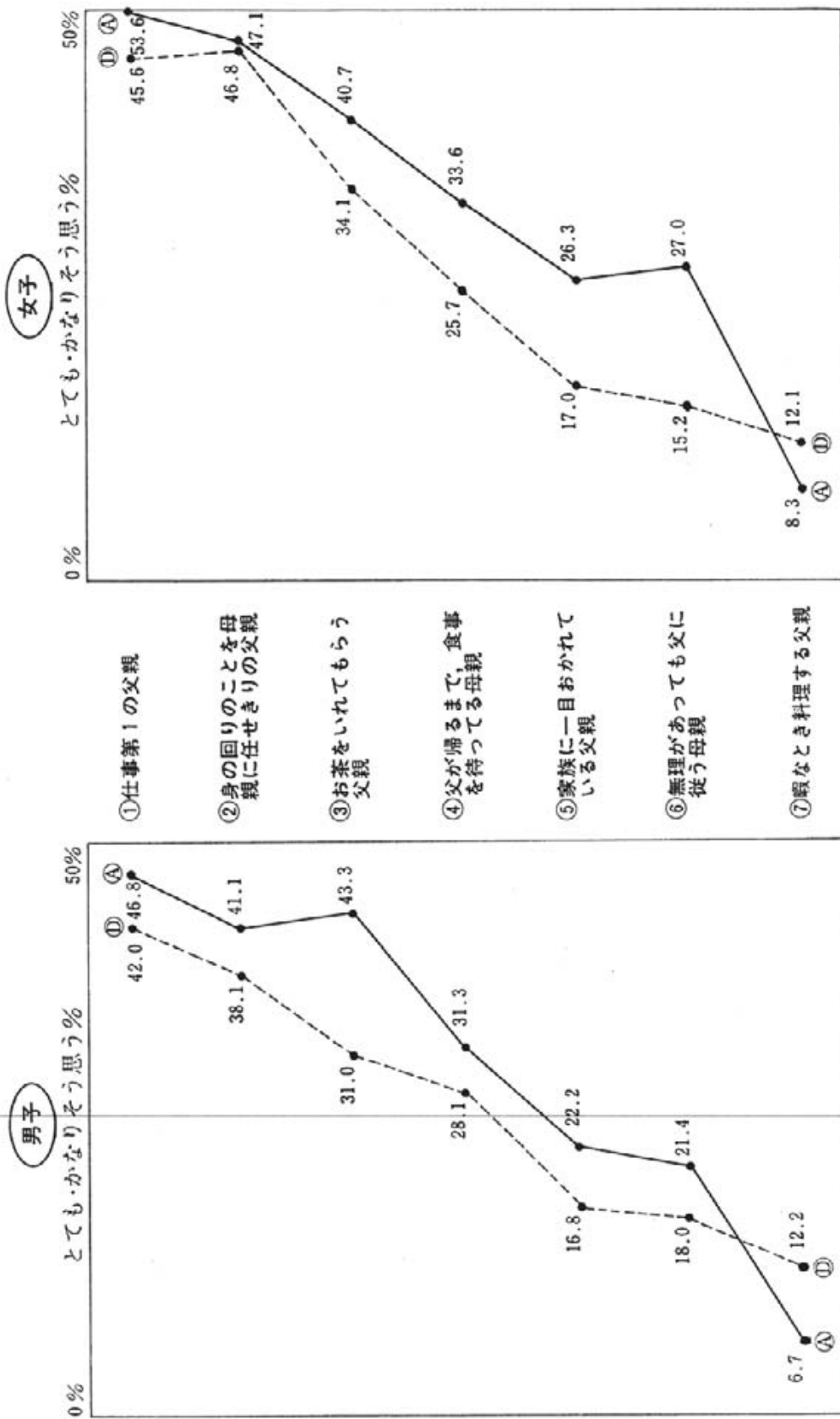
A群からD群までのそれぞれの出現率を、表31に男女別に示しておいた。すでに述べた結果から予想されるように、A群、つまり「すべて妻まかせ」のグループが、男子の方に5%ほど高いものの、全体としてみると、家事分担についての考え方に、性差はきわめて少ない。くり返しになるが、男女ともに、ほぼ8割の生徒が、「家事は主として妻が担当するもの」と答えている。

そこで、A～D群の4つのグループを使い、そうした開きがどのような背景から生まれてくるのか、要因の分析を行うことにした。

両親の姿と子どもの意識

家事は、日常的な営みであるだけに、家庭における両親の姿が、子どもたちの気持ちに影響することが多いと考えられる。そこで、まず、両親の暮らし方とのクロス集計結果を、A群とD群とに対比させて示したのが図32である。左側に男子、右側に女子の結果を示してあるが、どちらのグラフも、⑦の「暇なときに料理をする父」を除く、①～⑥については、D群（夫も手伝う）よりA群（妻全部）の方が高い数値を示している。

図32 A群(妻全部)とD群(夫も手伝う)の両親像の比較



ここで提示した項目は、①の「仕事が第一の父親」から⑥の「無理があっても父に従う母親」まで、いずれも、夫唱婦隨の夫婦かどうかを尋ねている。したがって、①～⑥までで描かれる夫婦の姿を要約すると、「父親は仕事大事で、家にいる時は身の回りの世話を妻にまかせきりで、お茶も入れてもらう生活を送っている。そして、母親も父親をたてて多少の無理があっても従う生き方をしている」となる。

図32によると、そうした夫唱婦隨の家庭に生まれ、たての物を横にもしない父親を見ながら育った男子はやはり家事分担には消極的であり、またそうした父につかえて動き回る母親を見ながら育った女子は、夫の家事参加

を望まず、自分も家族のために家事に専念するだろうという見通しを抱くようになる。ここで、もう一度、図32をごらんいただきたい。最下段に、⑦「暇なときは料理をすることもある」という積極的に家事に参加する父親像をあげておいた。この結果に見られるように、男女ともに、父親が積極的に家事を分担している姿を見ている子どもたちは、わずかずつでも家事参加への意識を高めている。

このようにみえてくると、家事のような日常的な営みの場合、子どもたちは、親たちの行為を無意識に内在化し、自分たちの家庭作りにあたってそうした形態を模倣するように考えられる。

表32-1 親への依存度(朝の起床)と家事分担(男子) (%)

	いつも自分で	自分でやることが多い	半々くらい	親まかせが多い	いつも親まかせ
A群(すべて妻がやる)	23.5	12.0	16.5	14.8	33.2
B群	25.2	15.4	17.1	22.3	20.0
C群	26.0	12.6	19.5	22.6	19.3
D群(夫も手伝う)	27.7	17.6	18.9	18.2	17.6
全体	25.3	14.2	17.9	19.4	23.2

表32-2 親への依存度(朝の起床)と家事分担(女子) (%)

	いつも自分で	自分でやることが多い	半々くらい	親まかせが多い	いつも親まかせ
A群(すべて妻がやる)	41.3	12.4	14.9	15.1	16.3
B群	33.7	18.7	17.9	13.9	15.8
C群	31.8	17.7	18.8	15.6	16.1
D群(夫も手伝う)	39.0	13.5	14.2	19.8	13.5
全体	36.0	16.1	16.7	15.6	15.6

自立的な習慣と 家事協力

今までふれてきたのは、家庭環境といういわば外在的な要因が、家事の分担意識にどのような影響を及ぼすかであった。そして、す

で述べた結果は、そうした意識が家庭環境の影響を受けやすいことを暗示している。そこで次に、本人自身のいわば内在的な要因が、家事分担にどのような関連を示すのかを考えてみたい。

表33 身のまわりのこと×将来の家事手伝い

(%)

		男 子			女 子		
		A	B・C	D	A	B・C	D
①部屋の掃除	自 分	23.7	55.9	20.4	25.0	50.7	24.3
	親まかせ	42.9	47.0	10.1	17.0	67.9	15.1
②ワイシャツやブラウスの洗濯	自 分	16.2	53.0	30.8	23.9	52.1	24.0
	親まかせ	35.1	48.1	16.8	19.3	62.4	18.3
③ふとんのあげさげ	自 分	23.3	30.7	46.0	23.7	53.0	23.3
	親まかせ	22.3	61.9	15.8	16.8	65.1	18.1
④下着の洗濯	自 分	16.0	53.4	30.6	23.8	50.7	25.5
	親まかせ	30.9	52.2	16.9	17.9	65.7	16.4
⑤洋服のアイロンかけ	自 分	22.0	45.8	32.2	23.7	50.3	26.0
	親まかせ	24.3	59.9	15.8	16.3	64.8	18.9
⑥スポーツ・ウェアの洗濯	自 分	15.7	52.7	31.6	23.4	51.0	25.6
	親まかせ	32.2	51.6	16.2	19.5	63.9	16.6
⑦弁当づくり	自 分	20.3	51.1	28.6	25.7	50.4	23.9
	親まかせ	32.8	49.5	17.7	16.3	65.9	17.8

注) 部屋の掃除を自分でしている生徒の内23.7%はA群に入るという意味

将来の家事参加の意識が、両親の姿から影響を受けているのはすでに述べた通りだが、そうだとすると、現実には、子どもたちが、自分の身の回りのことをどの程度しているのかも家事参加の気持ちと関連している可能性が強い。そこで、「朝の起床を自分でやっているか」に例をとり、将来の家事分担との関係を考察したのが表32である。

男子の場合、表中に数値を○で囲んで示したように、「いつも自分で～自分でやる人が多い」と少しでも自分でやっている男子は、D群に割合が高く、逆に「いつも母親まかせ」の男子はA群では33%、D群では18%と、A群に多い。つまり、高校生の時、母親まかせの生活を送っている生徒は、将来も、妻まかせの生活をしたと考え、それに対し、自分なりに自立した生活を過ごしている者は、家庭を築いた時にも、「少しは手伝うつもりだ」と答えている。

女子の場合も、男子と同じように、自分なりの自立した生活を送っている者は、家庭を持った時、自分の力で切りもりをすると答え、それに反し、母親まかせの生活をしている者

の中に、夫も手伝って欲しいと望む者が少ない。

こうした傾向を、その他の項目にわたってたしかめようとしたのが、表33である。まず男子の場合に目を向けてみたい。不等号の向きが示すように、ほとんどすべての項目にわたって、「日常のことを親まかせにしている生徒は、A群、つまり、将来、妻依存の生活をしたと答え、自分でしている生徒は、D群、つまり、自分も家事を手伝うつもり」という傾向が得られている。それに対し、女子の場合は、身の回りのことを自分でしている生徒は、A群とD群とに分散している。つまり、家庭を築いたら、自分ですべてのことをするという生徒と、夫にも手伝って欲しいと考える者とに分かれている。

女子生徒の二分化されたあたりに、女性たちの屈折した気持ちがあらわれているように思われるが、全体としてみると、「身の回りのことを自分でしている生徒は、自分の家庭を作る時も、男子なら妻を助け、そして、女子なら自分で切りもりをする可能性が強い」と要約することができよう。

表34 進学の見通し×家事分担

(%)

			A 群	B 群	C 群	D 群	サンプル
東大や京大を受けたら	男子	無理 { とても かなり やや なんとかなる 多分入れる	30.0	29.2	23.7	17.1	52.6
			22.6	32.7	22.6	22.1	20.5
			25.7	32.0	24.3	18.0	10.3
			27.9	23.7	27.3	21.1	9.7
			37.6	22.0	22.0	18.4	6.9
	全体	28.3	29.1	23.8	18.8	100.0	
	女子	無理 { とても かなり やや なんとかなる 多分入れる	25.8	37.8	22.2	14.1	74.1
			16.8	36.2	21.4	25.6	15.3
			16.3	35.7	23.5	24.5	5.7
			21.7	27.7	15.7	34.9	4.0
0.9							
全体	23.7	37.0	21.8	17.5	100.0		
早慶を受けたら	女子	無理 { とても かなり やや なんとかなる 多分入れる	26.9	38.8	21.2	13.1	57.6
			18.8	37.4	25.3	18.5	22.4
			16.6	37.6	21.0	24.8	9.1
			23.7	25.3	18.8	32.2	9.3
							1.6

進学の見通しと家事

読者の中には、家事の分担に、何故それほどまでにこだわるのかとお思いの方がおられるかもしれない。

家政には、家事と育児が含まれているが、この内、育児は、出産とイメージが重なるので、高校生くらいだと、母親のする仕事という感じを伴おう。しかし、家事については、気持ちさえあれば、男性も協力できる領域である。そうした意味で、すでにふれたように、家事を妻にまかせきるかどうか——女性の方からいえば、夫の協力を求めるかどうか——は、性に対応した役割の変容——夫は社会に出て働き、妻は家庭内のきりもりをする——の程度を象徴するものと考えられる。

そして、今までふれてきたように、性に対応した役割の分業を前提として、家事は妻にまかせざるべきだと思っている生徒の属性は、男子の場合、①夫唱婦隨の家庭に育ち、②身のまわりのことを母親にまかせている子ども。女子の場合、①の条件に加え、②自分のことを自分でしている生徒であった。

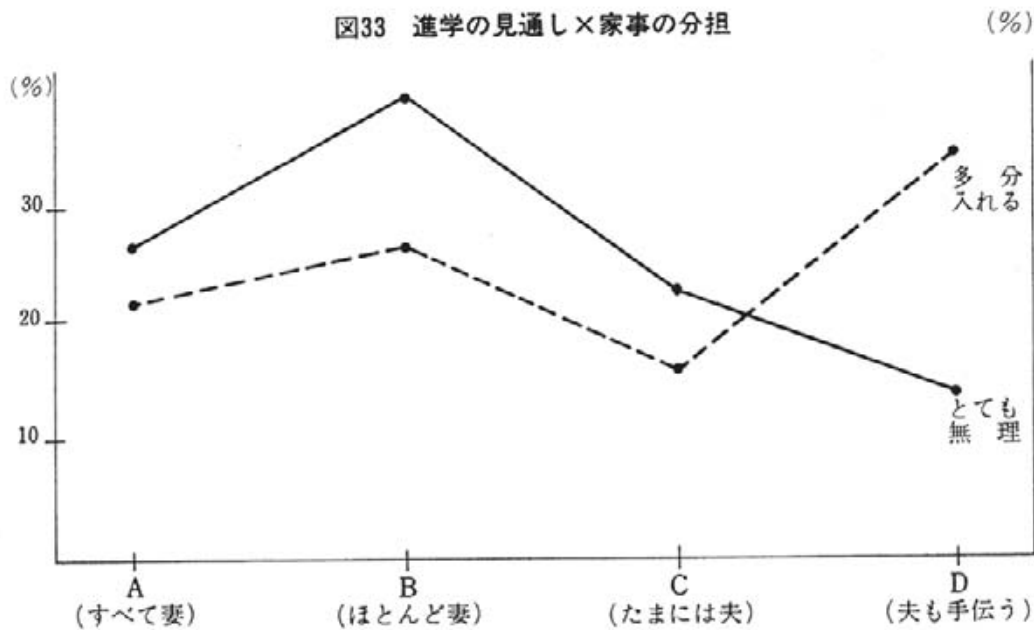
この結果のうち、男子については、しても

らう立場であるから、さもありませんという感じがする。しかし、女子の場合、妻が家事のすべてをするのは専業主婦の生活を意味するのであるから、男子ほど単純に「してあげたい」という気持ちになれないかもしれない。事実、表33の結果でも、男子の反応は分かりやすいが、女子は、「身の回りのことを自分でしている生徒は、A群とD群とに分かれる」のように、やや複雑な反応を示している。

こうした女子生徒の反応を、もう少しこまかくとらえようとしたのが、表34、図33である。表34に例をとると、この数値は、「一生懸命にがんばったら、いわゆる一流の大学へ入れると思うか」という項目と家事分担の予測をクロスさせた結果である。自分の能力に対する評価は、「とても無理」から「多分入れると思う」の5段階で求めている。比較のため、上段に男子の自己評価の数値を並べておいたが、表によると、女子の進学見通しが男子に比べかなり低くなっていることがわかる。「とても無理・かなり無理」と全く入学は不可能と自己評価する女生徒は、男子より2割ほど多く、9割に達している。

進学を目指しても、一流大学へととても入れ

図33 進学の見通し×家事の分担



そうもないという気持ちだが、本章で明らかにしたような「せめてマイホームを築きたい」という感情の傾斜を招いたように考えられるが、そうした考察はともあれ、表の中で注目したいのは、女子生徒たちの反応である。

すなわち、男子の場合、一流大学への進学見通しと家事分担との間に有意な傾向を見出しにくかったが、女子の場合、進学を断念している生徒に、A群(妻がほとんどすべてをやる)の占める比率が高く、進学の可能性を感じている者にD群(夫も手伝うべきだ)の割合が高い。こうした傾向を、分かりやすさを考えて図化したのが、図33である。家事は妻のみが行うのでないと考えるD群が、進学の可能性を信じている生徒の場合、ほぼ3分の1を上回っている。それに反し、進学を断念するにつれて、A群的な考え方を支持する生徒が増加してくる。

一流の大学に入学できるだけの能力を持つ女性ならば、将来その気になって頑張れば、男性と同様に社会に進出して行くことも十分に可能であろう。そうした気持ちが、専業主婦の生き方に対する反発となってあらわれるのは、納得のできる心の動きである。それに

対して、いわゆる一流大学への進学見通しを持たない生徒たちの気持ちはどうか。ここまで激しい競争の中で、男子と伍して頑張ってきた。しかし、そうした競争に疲れた時、一つの救いになるのが専業主婦の生き方なのであろう。事実、「女なのだから、そんなに頑張らなくてもいいんだ」と学業不振の悩みから解放され、専業主婦志向へと傾斜していった女子高校生の姿を、筆者も見聞きしてきた。また、逆に学業にいきづまった時、「何のために頑張っているのか」具体的目標がつかめず、つけそうな仕事を見出すまでずい分悩んでいた女生徒もいた。「女であるがゆえ」に残されている救いの道と、「女であるがゆえ」にぼやけてしまっている職業への道と、その両者の存在が女子高校生の専業主婦志向を助長しているとも考えられる。そうした意味では、現代の高校生も、特に女子に限っていえば、専業主婦文化を受容するようになるまでに、自分の将来についての挫折や失望の体験を経ているのかもしれない。

そうであるとすると、女性の社会進出についての見通しなども、性役割の受容に関連する可能性が強い。

表35 女性の社会進出についての見通し(男・女別)

(%)

女性の進出	見通し	5年後 ぐらい	10年後 ぐらい	20年後 ぐらい	50年後 ぐらい	絶対実現 しない
①大型トラックの女性 ドライバー (珍しくなくなる)	♂	18.0 (20.7)	<u>23.3</u> (27.0)	19.5 (21.8)	13.1 (11.5)	<u>26.3</u> (19.0)
	♀	23.6	<u>31.5</u>	<u>24.6</u>	9.8	10.5
②大企業の女性部長 や課長 (珍しくなくなる)	♂	15.9 (17.0)	<u>26.2</u> (29.0)	<u>25.4</u> (26.7)	16.3 (16.0)	16.2 (11.3)
	♀	18.3	<u>32.1</u>	<u>28.2</u>	15.8	5.6
③国際線の女性機長 が生まれる	♂	14.3 (13.3)	<u>22.6</u> (24.3)	17.3 (20.2)	11.6 (13.4)	<u>34.2</u> (28.8)
	♀	12.1	<u>26.3</u>	<u>23.4</u>	15.6	22.6
④小学校長の半数が 女性になる	♂	5.7 (5.8)	14.0 (17.3)	<u>23.3</u> (27.8)	22.9 (22.4)	<u>34.1</u> (26.7)
	♀	5.8	<u>21.3</u>	<u>32.9</u>	21.7	18.3
⑤女性の総理大臣が でる	♂	3.1 (2.9)	7.1 (8.1)	17.1 (18.7)	<u>23.8</u> (26.7)	<u>48.9</u> (43.5)
	♀	2.7	9.4	20.7	<u>30.2</u>	<u>37.0</u>

女性の社会進出 と家事の分担

そう考えて、これからの日本の社会で、女性がトップレベルのポストに進出して活躍するようになる日を予測してもらったものが表35である。5つのポストについて、「日本では何年後に実現するか」を「5年後ぐらい」から「実現しない」までのスケールでたずねている。最も実現の見込みの高い項目は、「大型トラックの女性ドライバーが珍しくなくなる」と10年以内に達成される見通しを持つ者が48%を占める。次が一般の大企業で部長や課長のポストにつけるようになること(46%)、そして、国際線の女性機長の誕生(38%)となっている。表は右側に行く程、実現の見通しが遠のくことを示しているが、「絶対実現しないだろう」という悲観的な見方をする者も少なくない。特に、男子では、女性の総理大臣や機長が誕生することはないと答えている生徒がそれぞれ49%、34%にもなる。

すでに、海外では女性宇宙飛行士が大空へ

飛び立ち、女性の首相も誕生している。わが国でも、政治の世界では何人か女性の大臣も生まれ、企業では女性の管理職への進出が話題となっている。また、小学校や中学校の教員に占める女性の割合はすでにかなり高くなっている。こうした社会の中に育ったはずの高校生たちにしては、女性の社会進出に対して暗い見通しを持ちすぎているような印象を受ける。確かにここに挙げられている項目は、どれをとって見ても男性社会の中で、女性が最も進出しにくいと思われる管理職や権威者、スペシャリストばかりである。が、それにしても、ここ半世紀の変化を視野に入れ、今後の推移を予測するなら、性差の縮小、それに伴う女性の職業参加は、ひとつの歴史の流れとも考えられる。

しかし、高校生たちは、女性の職場進出がむずかしい社会が、今後も続くと思っている。そうした気持ちが、特に、男子を中心に、家事は妻にまかせるという気持ちを生みだしたのであろう。そこで、女性の社会進出と将来の家事分担の見通しをクロス集計してみた

表36-1 女性の社会進出（トラックの女性ドライバー）と家事分担（男子）（%）

家事分担 \ 女性の進出	5年後 ぐらい	10年後 ぐらい	20年後 ぐらい	50年後 ぐらい	絶対実現 しない
A群（すべて妻がやる）	17.5	19.2	16.2	11.3	35.8
B群	16.8	22.9	21.0	16.4	22.9
C群	17.7	25.6	19.8	12.5	24.0
D群（夫も手伝う）	21.5	26.2	21.5	10.6	20.2
全体	18.1	23.2	19.5	13.0	26.2

表36-2 女性の社会進出（トラックの女性ドライバー）と家事分担（女子）（%）

家事分担 \ 女性の進出	5年後 ぐらい	10年後 ぐらい	20年後 ぐらい	50年後 ぐらい	絶対実現 しない
A群（すべて妻がやる）	23.2	27.8	25.1	11.8	12.1
B群	21.8	34.4	24.8	8.3	10.7
C群	22.9	31.0	25.3	10.3	10.5
D群（夫も手伝う）	29.3	31.3	22.0	9.7	7.7
全体	23.7	31.5	24.5	9.8	10.5

ものが表36である。「大型トラックの女性ドライバーが珍しくなくなる」というアイテムを用いて、男女別に作表してある。表36-1の男子の場合についてみると、表中の○印が示すように、女性の社会進出の見通しが暗くなるほど、「家事は全部妻がやる」という意識が強まる傾向がみられる。さらにいえば、D(夫も手伝う)群の男子は、A(妻まかせ)群の男子にくらべ、女性の進出にやや明るい見通しを抱いているようである。こうした傾向は、表36-2の女子の場合にもみられる。

したがって、今までふれてきた内容を要約すると、以下の通りとなる。

① 性に伴う分業の形態を認め、家事は妻がすべきだと考えている男子生徒

1. 夫唱婦随の家庭に生まれ、2. 将来も女性の進出はないだろうと考えている、3. 身の回りの世話を母親にしてもらっている生徒

② 専業主婦の生き方に批判的で、家事を妻だけがすることに懐疑的な女子生徒

1. 父親が家事を手伝う家庭に生まれ、2.

女性の社会進出を信じている、3. 身の回りのことを自分でしている、4. 大学進学に意欲をもやす生徒

こうした傾向を、もう少し多角的に調べるために、数量化II類を用いて、高校生の家事分担意識を規定する要因を分析することにした。家事分担についての反応によりグルーピングしたA群～D群の4群を、A群とB、C、D群に分け、この2つのグループがどのような属性に支えられているかを分析した結果が図34である。「がんばる力」から「性別」まで11のカテゴリーについて、スコアのレンジの大きいものから順に並べてある。これによれば、「家事は妻がするもの」という意識を強く持つ生徒は、①「自分がんばる力がない」と思っており、将来は②「夫唱婦随型の夫婦」を理想とし、③「数学の成績はとて～かなりよい」といった属性の持主であった。逆に、少しでも家事参加の意志を持つ生徒は、④出生順位が「中間子」で、将来は「独立尊重型」の夫婦をめざし、がんばる力も「ややある」と思える生徒たちであった。

図34 将来の家庭での家事分担

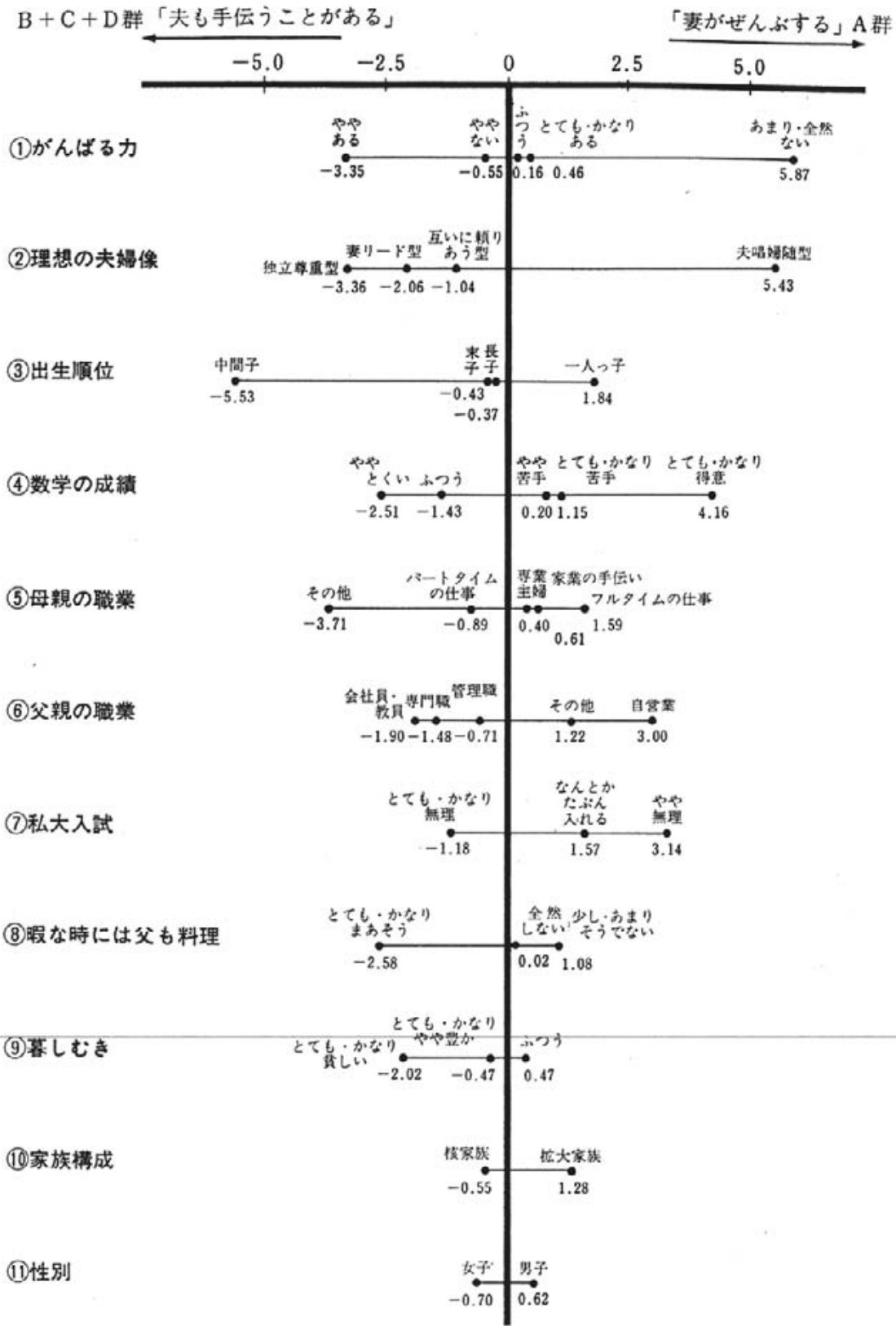
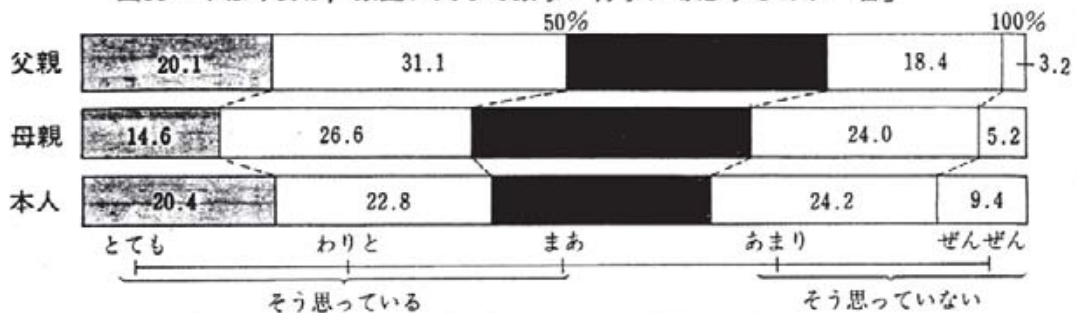
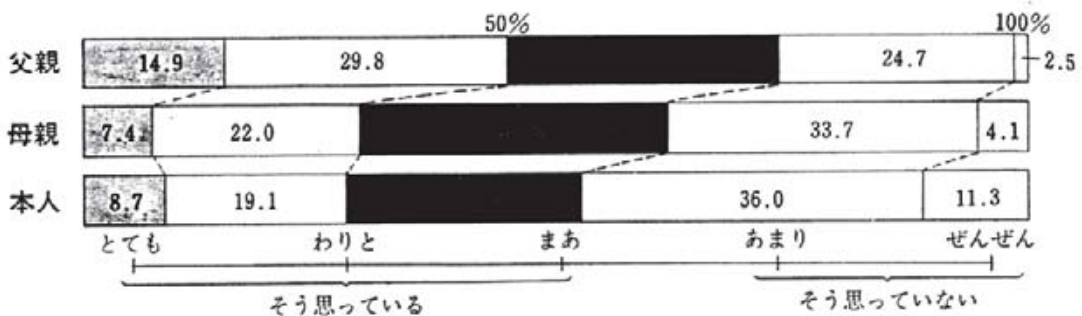


図35 「やはり女は、家庭に入って家事・育事に専念するのが一番」



「男子たるものは、仕事に打ち込むのが最もしあわせ」



4. 性に対応した役割分化をめぐる

「女性のしあわせは 家庭に」は67%

そろそろ、まとめに入ろう。今までふれてきたように、高校生たちの家庭像は、現状をふまえつつ、そうした中で、マイホームを築くことにあこがれに近い気持ちを抱いていると要約できよう。

そこで、全体を要約する意味で、あらためて、男性と女性のしあわせな生き方は何なのかと尋ねてみた。図35の上段は、伝統的に、女性のしあわせな生き方であるといわれてきた専業主婦としての生き方、つまり、「やはり女は家庭に入って、家事・育児に専念するのが一番である」という意見に、両親と彼ら自身がどの程度賛意しているかをたずねた結果である。また、その下の段には同様に男性の生き方についての結果が示してある。伝統的な女性の生き方を肯定している割合は全体に高く、両親と本人の肯定率にほとんど差がな

い。「とても・わりとそう思っている」と答えている割合は、父親が51%、母親が41%、本人が43%である。父親にくらべ母親の肯定率がやや低くなっているのは、母親たちが、専業主婦としての生き方に不平や不満をもらしているためであろうか。

それにくらべ、男性の生き方については否定する割合がかなり高くなっているのが注目される。さすがに、彼らの父親はまさに今社会の中で仕事大事の生活をしているためか、「まあそう思う」を含めて全体の73%が「男は仕事だ」という男性観を肯定している。それが母親になると62%、本人53%と肯定率が低くなっていく。仕事一途で家庭を省みない父親像は、現実の生活においてはやはり母親や子どもたちに不満をもたらすことも多いだろうか。もっとも調査項目の「男子たるものは、あまり家庭にとらわれず仕事に打ち込むのが最も幸せな生き方である」というワーディングの「家庭」の部分に対する抵抗が数値

表37-1 「やはり女は、家庭に入って家事・育児に専念」 (%)

		とてもそう	わりとそう	まあそう	あまり 思っていない	ぜんぜん 思っていない	
父親	♂	22.2	53.0	30.8	28.1	15.5	3.4
	♀	17.6	49.2	31.6	26.1	21.8	2.9
母親	♂	15.8	42.1	26.3	30.9	22.8	4.2
	♀	13.8	40.7	26.9	27.1	25.9	6.3
本人	♂	26.6	51.7	25.1	25.5	16.7	6.1
	♀	13.6	33.7	20.1	20.5	32.7	45.8

表37-2 「男子たるもの仕事に打ち込むのが最も幸せ」 (%)

		とてもそう	わりとそう	まあそう	あまり 思っていない	ぜんぜん 思っていない	
父親	♂	16.1	45.2	29.2	27.9	23.6	3.2
	♀	13.5	44.2	30.8	28.3	25.8	1.6
母親	♂	7.7	29.5	21.8	33.7	32.2	4.6
	♀	7.0	29.3	22.3	31.8	35.5	3.4
本人	♂	11.6	32.1	20.5	25.2	31.7	11.0
	♀	5.1	22.8	17.7	24.5	41.1	52.7

となって表われていることも考えられる。

では、同じ項目について男女別に結果を見直してみることにしよう。表37-1に女性観、表37-2に男性観について男女別の数値をまとめてみた。まず女性観については両親の意見にはそれ程差が見られないが、最下段の本人の意見では男女の間に2割程度の差が認められる。「女は家庭に」という女性観に、「とても〜まあそう思うと同調している男子が77%にも達しているのに対し、女子では54%にとどまっている。そして、当然のことながら女子の半数近くの生徒たちがこうした女性像を決めつけられることに反発している。また、男性観についても女子の半数以上が否定的である。

これまで将来の暮らし方や家事分担の結果からは、女子生徒たちが夫につくす専業主婦志向を抱いていることが見い出され、一見伝統的な女性観・男性観を素直に受け入れているように思われた。が、「やはり女のしあわせは家庭にある」や「男子は家庭を省みず仕事一途に」という決めつけに対してはさすがに抵抗を覚えるらしく、反発をあらわにしている。夫や子どものために家事をするのは構わないが、主婦だからと言って家庭に縛りつけられ

ていることはないし、夫も仕事のために家庭生活を犠牲にしたり、自分の時間を束縛されるのでは困るという考え方なのであろうか。

現実には、「家事に専念する」といっても、ひと昔前の母親たちのように苦勞せず家事ができるよう、住居は住みやすく、台所も便利になっている。もう彼女たちの母親は、合間をみてはカルチャー・スクールに通ったり、いろいろなサークル活動に参加して余暇を楽しんでいる世代である。したがって専業主婦志向とひと口に言っても、かつての空虚な暗いイメージとは少し異なっているのかもしれない。食べるために働かなくてもよいのなら、自由に時間を使って楽しく暮らしたい。犠牲になるのは嫌だが、そうでないなら、専業主婦の暮らしも悪くはない。そうした気持ちを、女子高校生たちは抱いているのかもしれない。

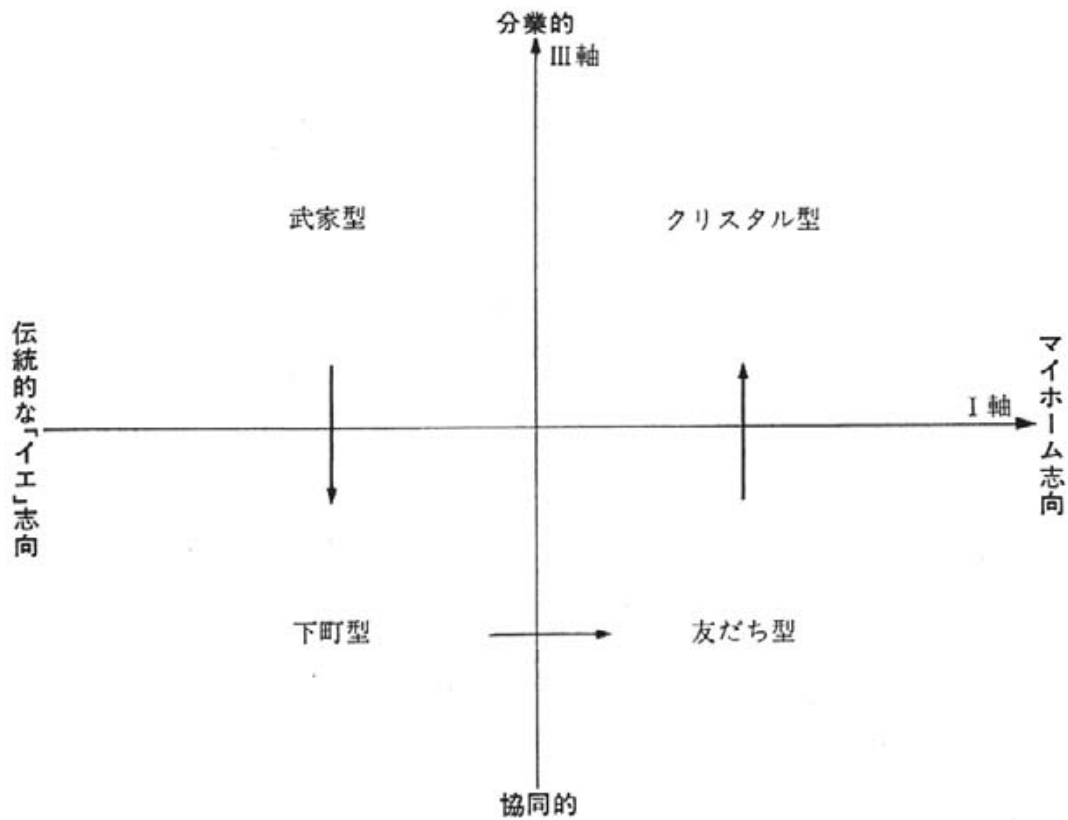
それに対し、男子は母親に依存してスッポリと包まれている生活の延長上に妻を存在させているため、とにかく家において面倒な家事一切を引き受け、優しくつくしてくれることを望んでいるのであろう。

こうした男子、女子それぞれの思惑を含んで成り立っているのが、現代高校生の家庭志向だといえなくもない。

表38 結婚生活像—カテゴリー・ウエイト表

		ブ	ラ	ス	
I 軸	1	子どもの生まれた後でもニックネームで呼びたい			3.749
	2	親せきつきあいは、年賀状程度でよい			3.090
	3	日曜日には仕事はしない			2.732
	4	近所つきあいは、あいさつ程度であまりかかわらない			2.695
	5	住まいはせまくても市街地にある便利なマンション			2.560
	6	子どもがいても、週に1度位は2人だけで外出			2.511
	7	夫も夕食後の片づけくらいは手伝うのが当然だ			1.954
		マ イ ナ ス			
I 軸	1	親と一緒にだと便利などころもあるので同居するのもよい			-1.319
	2	生活にゆとりが出たら、将来のため貯金したい			-1.273
	3	「女は家庭に入るのが一番の幸せ」にとても・かなり賛成			-0.960
	4	衣服は、ちいさい買物でも必ず2人で相談しながら買う			-0.929
	5	近所つきあいは、家族ぐるみで親しくつきあう			-0.902
	6	親せきつきあいは、できるだけ親しく行き来をする			-0.808
	7	子どもが生まれたら、ベアルックを着たり、腕をくんだりしない			-0.799
		ブ			
		ラ			
		ス			
III 軸	1	夫の昼の食事は好きなものを外食する			4.467
	2	近所つきあいは、あいさつ程度であまりかかわらない			2.009
	3	子どもが生まれたら、ベアルックを着たり、腕をくんだりしない			2.008
	4	妻が熱を出しても、夫は会社へ行く			1.909
	5	服装は好みがあるのでそれぞれ別々に買う			1.355
	6	「男たるもの仕事一途に」にまあそう思う			1.294
	7	夫に収入があっても妻は働いた方がよい			0.998
		マ イ ナ ス			
III 軸	1	子どもが生まれた後でもニックネームで呼びたい			-2.601
	2	経済が許せば子どもは4~5人欲しい			-2.329
	3	子どもが生まれても、ベアルックを着て腕をくんで歩きたい			-2.266
	4	夫も夕食後の片づけ位は手伝うのが当然だ			-1.863
	5	衣服は、ちいさい買物でも必ず2人で相談しながら買う			-1.764
	6	妻が熱を出したら、夫は会社を休んで世話をする			-1.283
	7	日曜日には仕事はしない			-1.169

図37 結婚生活像の類型



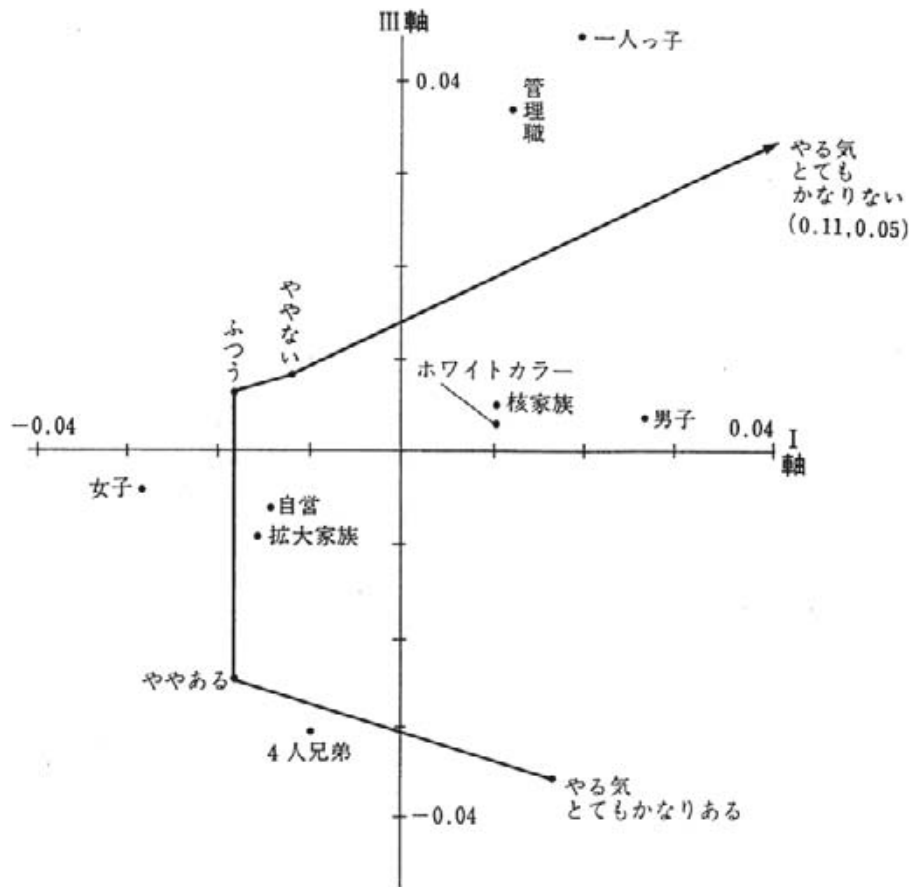
5. 高校生の結婚生活像

最後に、これまでの結果をまとめる意味で、現代高校生の結婚生活像の類型化を試みてみた。将来の暮らし方についての20のアイテム(図30)と男性・女性の生き方についての2つのアイテム(表37)を用いて、数量化III類での分析を行った。各々のアイテムについて、「ぜったい・まあa)だ」と「ぜったい・まあb)だ」の2つのカテゴリーに分け、合計44アイテム・カテゴリーについての反応パターンを平面上に分布させると、図36のような結果が得られる。

この中から、I軸・III軸のそれぞれについて、プラスとマイナスのカテゴリー・ウエイトの大きい順に7項目を選び出したものが表38である。I軸のプラス方向は、「子どもが生まれてもニックネームで呼ぶ」「親せきづき

あいは年賀状程度」「日曜は仕事をしない」「住まいは便利なマンション」などに代表される伝統的な「イエ」意識から離脱した方向である。それに対し、I軸のマイナス方向は、「親と同居」「生活のゆとりは貯蓄」「女は家庭に入るのが一番」「近所づきあい・親せきづきあいは親しく」など伝統的な「イエ」意識を受けつぎ、親の世代と同じような生き方を志向している。また、III軸のプラス方向は「夫は昼食は好きなものを外食」「近所づきあいはあいさつ程度」「妻が熱を出しても夫は会社へ」「服装は好みで別々に」と夫と妻とが相互に独立し自立した姿勢を持って暮らしていくのを志向している。そして、マイナス方向は「子どもが生まれても、ニックネームで呼びあい、ベア・ルックを着て歩きたい」「夫も夕食後の片

図38 数量化Ⅲ類のサンプルスコア



づけは手伝う」「小さな買物でも二人で相談して」と、ふたりでよりかかりながら、性差の少ない「イエ」意識の希薄な夫婦のような方向を目指す生き方である。

こうしたⅠ軸とⅢ軸を交差させ、平面上にプロットさせた反応パターンより類型を作ると図37のようになる。まず第一象限に「市街地のマンション住いで周りとのつきあいをせず、夫婦もそれぞれ自分の好みを大切に生活する」個性尊重型のいわばクリスタル感覚のマイ・ペース夫婦が位置する。第二象限には、親であり、夫・妻としての自分の役割をそれぞれが堅実にこなして生きていこうとする、かつての「武家型」的な家庭の姿がうかんでくる。そして、第三象限には、親子・夫婦・ご近所の人々など暖かな人間関係の中で互いに助けあい、頼り合いながら暮らす「下町的な家族」が位置する。最後に、第四象限

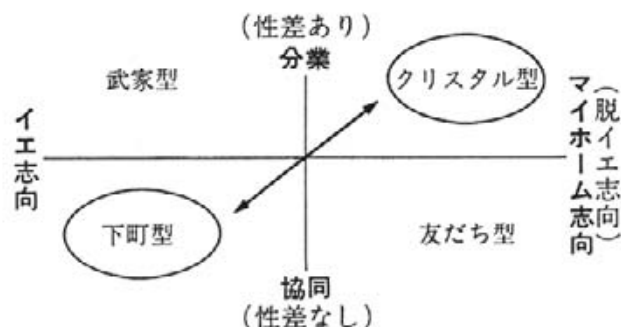
は、子どもが生まれても夫婦関係を大切に、日曜は仕事をせず、夫も家事を手伝うなど、かつてニューファミリーと呼ばれた「友だち夫婦型」となっている。

そして、この4つの類型を、家族内での人間的な絆や役割の分化に着目して、マクロにとらえてみると、男性と女性の役割が分化し、人間関係が形式的な「武家型」の家族から出発して、人間的な絆の強い「下町型」へ移り、そして、性差の関係があいまいとなって「友だち型」夫婦となり、最後に、それぞれが独自に暮らす「クリスタル型」へというのが、家族の歩む社会的な軌跡とも考えられる。

こうした図式の上に、サンプル・スコアをのせたのが、図38である。なお、スコアの数値は、表39に示してある。

表39 数量化Ⅲ類のサンプルスコア

		Ⅲ軸	I軸			Ⅲ軸	I軸			
性別	男	0.004	0.026	数学の成績	とてもかなり得意	-0.026	0.080			
	女	-0.004	-0.028					やや得意	-0.016	-0.015
家族の	核	0.005	0.010	の	ふつう	-0.001	-0.021			
	大	-0.008	-0.016					やや苦手	0.004	-0.018
兄弟関係	一人	0.046	0.019	や	とてもかなりある	-0.035	0.013			
	男子のみ	0.006	0.032					ややある	-0.024	-0.019
	女子のみ	0.002	-0.017					ふつう	0.007	-0.018
	男女のきょうだい4人以上	-0.006	-0.007					ややない	0.009	-0.012
父の仕事	自営	-0.003	-0.014	る	とてもかなりない	0.053	0.108			
	ホワイトカラー	0.003	0.010					や	-0.024	-0.019
	管理	0.037	0.012					や	0.009	-0.012
	専門その他	-0.015	0.076					や	0.009	-0.012
	その他	-0.016	-0.020							



図から多くの解釈が可能だが、ここでは、第三象限（下町型）と第一象限（クリスタル型）に、サンプル・スコアが集中していることに注目したい。つまり、大づかみにすると、高校生たちにとって、家族とは、上の図のように、「伝統的ではあるが、性差の少ない」＝下町型と「脱イエ志向で、互いに独立した」＝「クリスタル型」との間でゆれ動いているものらしい。そして、図38が示すように、家庭に、下町的なイメージを抱いているのは、①兄弟が多く、②大家族で、③自営業などを営む、④女子であり、それに反し、クリスタル的な感覚の持主は、①1人っ子で、②核家族の、③管理職やホワイトカラーなどの家庭の、④男子となる。

こうした傾向から察すると、人間的な接触の多い家庭に住む高校生は、家庭生活に「下

町型」のイメージを抱き、それに対し、一人っ子や核家族など、人間的な関係の希薄な家庭の高校生は「クリスタル型」的な感じの家庭像を持っていることになる。そうした意味では、生徒たちの家庭像は、現在、暮らしている家庭の影響を強く受けているといえよう。考えてみれば、生徒たちが十数年過ごしてきた「わが家」を、良きにつけ悪きにつけ、モデルとするのは当然の心の動きと考えられる。

そうだとすると、本報告書でふれてきた高校生の恋愛観や家庭観は、親たちの生活を反映したものであり、仮に、高校生の意識になんらかの問題があるのだとしたら、そうした歪みをもたらしたのは、親の生活ぶりだといえなくもない。

まとめにかえて

調査結果の読みとりをしていると、霧にかこまれた視野がすっきりと晴れるように、問題の輪郭が見えてくることもある。しかし、今回の調査は、正直に言って、霧の晴れないままに分析を終えたような感じがして、すっきりとした気分になれなかった。

ほんの一握りの生徒を除くと、特定の相手のいないまま、好きな相手に誕生日のさきやかなプレゼントを贈ったり、喫茶店で話をしたりする日を夢みている生徒が8割に近い。しかも、両想いの相手のいる生徒にしたところで、予想以上に、プラトニックな関係を保とうとしているような印象を受ける。

新聞紙上などに、高校生たちの不純異性行為が報じられる機会が多い。いわゆるマス・コミ報道が、時には誇張に走りがちなることを熟知しているから、そうしたニュースを鵜呑みにするつもりはないが、それでも、かなりの

高校生がそれなりに充実した生活を送っているのではと想っていた。事実、午後の喫茶店やスポーツショップ、そして、レコード屋などで、いかにも恋人らしい雰囲気の高中生たちを見かけることが多い。

しかし、今回の調査結果は、高校生たちのブアーといってもよいような青春を暗示していた。調査票の作りが悪く、高校生たちが本心をかくしたのか、あるいは、サンプル集団に偏りがあったのかなどの可能性も考えてみた。しかし、いくつかの項目を詳細に分析した結果は、彼らがむしろ卒直に心の内を吐露しているのを示していた。また、サンプル集団についても、近い将来に、実業高校を対象とした調査を予定しているの、今回は普通高校にサンプルを限定してある。しかし、表40のように、北海道から九州まで、そして、明治時代に創設された高校から新設校まで、

表40 サンプル校

		校名	共学	設立	一学年定員(人)	国立大 入学者(人)	旧制帝大 入学者(人)
北海道	道立	A	共学	昭和47	441	86	6
	道立	B	共学	昭和23	128	2	0
宮城	県立	C	共学	昭和2	311	0	0
	県立	D	共学	昭和26	210	15	1
	県立	E	女子のみ	大正9	445	21	1
東京	都立	F	共学	大正13	371	83	6
	都立	G	共学	明治36	316	10	0
	都立	H	共学	大正12	252	95	5
愛知	私立	I	男子のみ	昭和7	213	35	16
	県立	J	共学	昭和47	357	98	25
	県立	K	共学	昭和50	359	41	7
石川	県立	L	共学	大正12	314	56	4
	県立	M	共学	昭和47	178	1	0
岡山	県立	N	共学	明治44	304	29	1
	県立	O	共学	大正13	175	45	2
福岡	県立	P	共学	大正6	457	285	157
	県立	Q	共学	昭和11	354	104	2

また、いわゆるAランクの進学校から進学者の少ない学校までも含めているので、サンプルの偏りは、比較的少ないと考えられる。

そうだとすると、本報告書でふれた高校生の姿は偽りのないものと思わざるをえない。われわれは、逸脱をしたり、先取りをしたりする生徒に目を奪われ、もくもくとまじめに生きている高校生たちの層が厚い事実を見逃していたのかもしれない。

それにしても、男子の85%、女子の63%が、「結婚後、妻は家庭に入った方がよい」と性に対応した役割の分化を認めているのは何故であろうか。また、夫に手弁当を持たせたいと思っている女子高校生が92%、そして、共働きの場合でも、朝食はすべて妻が作ると考えている生徒が73%などという結果をどう評価したらよいのであろうか。

戦後の30年、考えてみると、「家庭の民主化」や「女性の社会進出」は、錦の御旗のように語りつがれてきたように思う。そうした中で、ふと気がついてみると、かつての亭主関白が姿を消すのと反比例する形で、やさしい父親が増加し、現在では、父親の復権を求める声すら生まれている。そうした反面、さまざまな形で社会参加をしている女性が増加し、一昔前と比べると、主婦たちの人間的な成長は目を見はらせるものがある。その結果、両親の間に性差の少ないパートナー型の家族が大勢を占めつつある。

そうした傾向を視野に置いて、今回の調査結果を概観すると、時計の針が、何十年か、逆回りをしたような印象を受ける。さだまさしの「関白宣言」がヒットした時、軽快なメロディと対照的な、歌詞の古めかしさに抵抗を覚えた。ああいうスタイルの男性は、ほんの少し前まで、ありふれていたからである。多くの男性は、関白の座に郷愁を感じつつも、そうしたものに未練を残してはいけなさと、マイホーム・パパへの転身を図った。それにもかかわらず、わが娘が、「関白宣言」を愛唱するのは、なんのための転身だったのかと思わざるをえない。

このところ、白黒の映画が若い人の心をとらえている。カラー映画で育った人たちにとって、白黒の画像が新鮮な感動を与えるからだという。また、「ディスカバー・ジャパン」以来、古い民具などに関心を持つ人たちが増加している。テレビのある暮らしになれた若い人たちにとって、七輪や火消しつば、キセルなどがナウイ感覚にうつるのであろう。

どうやら、きちんと伝達しなければならないのは、戦争体験に限らないらしい。今ではあたり前のように思える「平和で民主的な家庭」が、親たちの苦悩の中から生まれたことを教える必要がある。

欧米では、国際婦人年を契機に広がった婦人運動の波が、NOW(National Organization for Women)などの一部の婦人団体を越えて、広範な社会改革への拡がりを見せつつある。アメリカの士官学校では、長い伝統を破って、女子の入学を認め、すでに、その卒業生は第一線で活躍しているし、大学などでも、学生寮の男女別廃止や女性教官の積極的な採用などが進んでいる。求人にあたって、「容姿たんれい」や「22才以下の女子」などの条件提示も、性差別を助長するとかで禁止されることが多い。

アカデミー賞を受けたアメリカ映画「クレマー・クレマー」は、そうした世相を逆手にとって、男性が子どもを引きとった時に生じる問題を考えさせたという意味で、いかにもアメリカの産んだ作品らしい映画である。

そして、現在、アメリカでは、女性の自立は望ましいのだが、その結果、離婚がふえ、欠損家庭が増加している。そして、そうした親たちの犠牲になるのが、子どもたちである。したがって、子どもの親としての立場を、もう少し考える必要があるなどの風潮が強まっている。性的な役割分化があまりに縮小されすぎた社会での問題提起である。

そうした海外の動向と比べ、今回の調査結果にあらわれたマイホーム志向の強さは、日本だけが婦人運動のかやの外にいる印象を受

ける。たしかに、高校生たちは、堅実なマイホームを築こうとしており、仮に、そうした気持ちを持続されるとするなら、離婚率も、欧米ほどの高まりを示さないように考えられる。

その限りでは、^{安堵感}安堵感を味わわせてくれるデータではある。しかし、高校生がマイホーム作りに過大とも思えるほどの期待をよせ、しかも、従来の家庭の仕組みをかえることなしに、むしろ、復古する形で、「つくす」生活を過ごそうとしている。いかにも、こじんまりとした人生設計である。彼らは、家庭以外のことに目を向けようともしていない。日本経済の安定が今後も続く信じ、家庭のあり方に疑問を感じることなく、現状維持の前提の上に人生設計を描いている。

オイルショックのたびごとに屋台骨の揺らぐ日本経済の現状を考えれば、日本の安定などというものは砂上の楼閣にすぎないと思うのが常識であろう。したがって、マイホームを

築くためにも、社会的な視野や見通しを持つのが不可欠と思うのだが、高校生たちに、そうした兆しも見受けられない。

いずれにせよ、高校生にしては、人生観が幼く、夢がなすぎるように思う。塾通いや高校受験と、勉強中心の生活を送ってきたことが、ひよわな人生設計をもたらしたのであろうか。あるいは、豊かな社会の到来が、豊かさに安住する子を育てたのか。そして、居心地の良い家庭が従順な子をうみおとしたのか。家庭のあり方や男性（あるいは女性）としての生き方、家事や育児の意味、家庭と社会との関係などを、高校生たちに、もう少し考えて欲しいと思った。しかし、生き方や人生観を考える場をどこに見出したらよいのか。少なくとも、高校教育は、そうした課題を背負っていないのが現実である。ここに、高校教育を魅力あるものとするための鍵が潜んでいるように思えた。

付表1 家族のサイズ

(%)

3人まで	4人	5人	6人以上
8.5	39.0	28.1	24.4

付表2 家族のタイプ

(%)

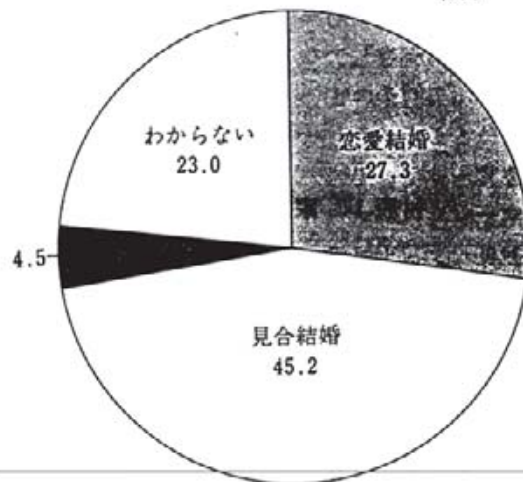
核家族	拡大家族
63.3	36.7

付表3 父母の職業 (%)

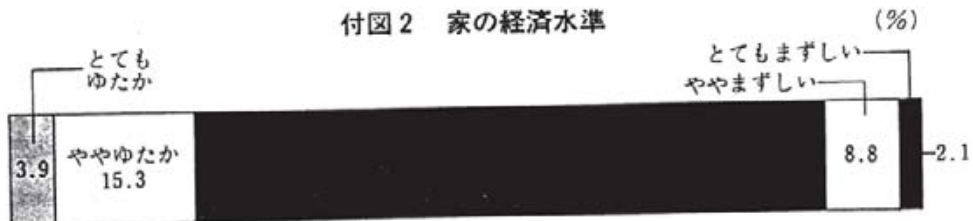
〈父親〉	
会社員・公務員	35.1
管理職	13.8
専門職	1.8
セミ専門職	3.0
自営業	17.0
その他	29.3

〈母親〉	
専業主婦	23.5
パート	15.0
フルタイム	23.6
家業の手伝い	21.7
その他	16.2

付図1 両親の結婚のきっかけ (%)



付図2 家の経済水準 (%)



調査票見本

昭和56年2月

調査のお願い

このアンケートは、高校生の家庭生活に対する考え方を明らかにするために作成したものです。テストとちがいますので、ご自分のお考えをありのままにお答えください。このアンケートは、全国で5,000人の高校生に、ご協力を求めることになっていますが、ご記入いただいたことでご迷惑をかけることはありません。

高校教育研究会

奈良教育大学教授 深谷昌志

東京学芸大学助教授 深谷和子

() 立 () 高校 () 年 男・女 (どちらかに○)

1) まず、あなたのご家族についておききます。

1) 家族の人数。 ① 2人 ② 3人 ③ 4人 ④ 5人 ⑤ 6人 ⑥ 7人以上

2) 家族構成。 ① 親と子どもだけのいわゆる核家族
② 祖父、祖母を含む三世大家族
③ その他

3) きょうだいの数。 ① 1人っ子
② 2人きょうだいで 男ばかり
③ 2人きょうだいで 女ばかり
④ 2人きょうだいで 男と女
⑤ 3人きょうだいで 男ばかり
⑥ 3人きょうだいで 女ばかり
⑦ 3人きょうだいで 男と女
⑧ 4人以上

4) きょうだいの中でのあなたの位置。 ① 1人っ子 ② 2人以上のきょうだいの一番上
③ 2人以上のきょうだいの末っ子 ④ その他

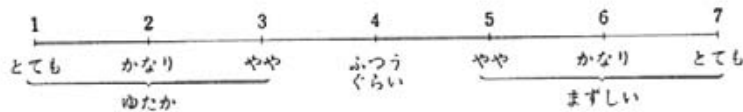
5) あなたのおとうさんはどんなお仕事をしていますか。①～⑥の中で近いところに○をつけてください。

- ① 自分の店をやっている
- ② 公務員やサラリーマンや先生
- ③ 会社の課長などの管理職
- ④ 新聞記者や技師などのセミ専門職
- ⑤ 医師や弁護士、教授などの専門職
- ⑥ その他

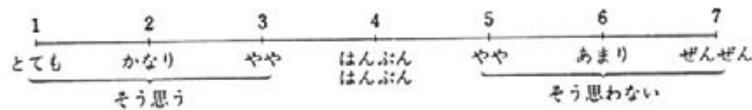
6) おかあさんはどんな生活を送っていますか。

- ① 家業をしている (お父さんといっしょに店をやっている)
- ② フルタイムの仕事をしている
- ③ パートタイムの仕事をしている
- ④ 専業主婦
- ⑤ その他

7) あなたのお宅のくらしむきはどれぐらいだと思いますか。



8) あなたが大きくなって、家庭を作る時、あなたのご両親のような家庭を作りたいと思いますか。

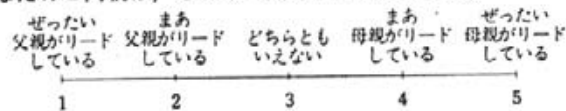


2) 次にあなたのご両親についておたずねします。

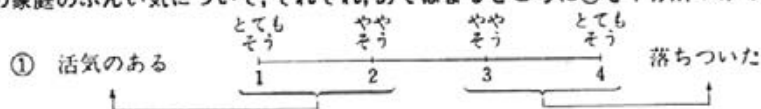
1) あなたのご両親は、どんな結婚をされたか知っていますか。

- ① 恋愛結婚
- ② 見合結婚
- ③ 知り合い結婚 (いとこ、おさななじみなど)
- ④ わからない

2) あなたのご両親は、どんなご夫婦だと思いますか。

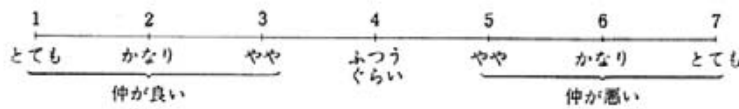


3) あなたの家庭のふんい気について、それぞれ、あてはまるところに○を1カ所つけてください。



② 自由な	とても 1	やや 2	やや 3	とても 4	きゅうくつな
③ まとまった	1	2	3	4	バラバラな
④ 人の出入りの多い	1	2	3	4	人の出入りの少ない
⑤ 明るい	1	2	3	4	暗い

4) ご両親は、仲の良い夫婦だと思いますか。



3) あなたのご両親のようすについて、あてはまるところに○をつけてください。

- 1) おかあさんの料理の腕前はかなりうまい方だと思う

とても	かなり	まあ	少し	あまり	ぜんぜん
そう	そう	そう	そうでない	そうでない	そうでない
1	2	3	4	5	6
- 2) 社会についてのおとうさんの考え方は家族のみんなから一目おかれている

とても	かなり	まあ	少し	あまり	ぜんぜん
そう	そう	そう	そうでない	そうでない	そうでない
1	2	3	4	5	6
- 3) 暇ができると、おとうさんは料理を作ることがある

とても	かなり	まあ	少し	あまり	ぜんぜん
そう	そう	そう	そうでない	そうでない	そうでない
1	2	3	4	5	6
- 4) おとうさんは身の回りのことをおかあさんにまかせっきりである

とても	かなり	まあ	少し	あまり	ぜんぜん
そう	そう	そう	そうでない	そうでない	そうでない
1	2	3	4	5	6
- 5) おかあさんは、おとうさんが仕事から帰るまで、自分の食事をしないで待っている

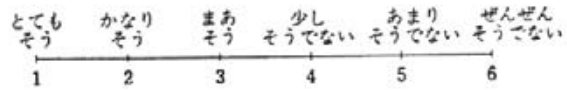
とても	かなり	まあ	少し	あまり	ぜんぜん
そう	そう	そう	そうでない	そうでない	そうでない
1	2	3	4	5	6
- 6) おかあさんは、おとうさんのいうことにすこし無理があっても従っているように思う

とても	かなり	まあ	少し	あまり	ぜんぜん
そう	そう	そう	そうでない	そうでない	そうでない
1	2	3	4	5	6
- 7) おかあさんは、機会があると講習会やいろいろな会合などに積極的に参加している

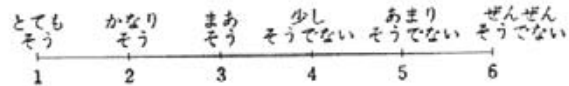
とても	かなり	まあ	少し	あまり	ぜんぜん
そう	そう	そう	そうでない	そうでない	そうでない
1	2	3	4	5	6
- 8) おとうさんは子どもたちの遊び相手や話し相手になってくれる

とても	かなり	まあ	少し	あまり	ぜんぜん
そう	そう	そう	そうでない	そうでない	そうでない
1	2	3	4	5	6

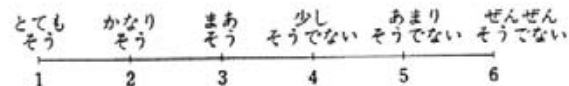
9) おとうさんが、お茶をのみたくなると必ずおかあさん呼んで入れてもらっている



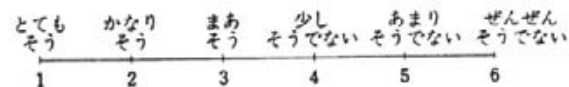
10) おかあさんは、あたらしものずきでおもしろそうなおとくと、すぐにやりたがる



11) おとうさんは、仕事を大事にし、仕事に誇りを持っている



12) おかあさんがいるだけで、家の中が明るくなるような気がする

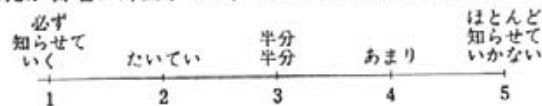


4 次に、家庭でのあなたについておたずねします。

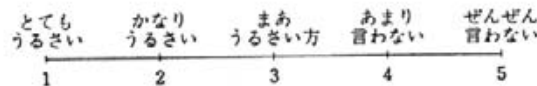
1) あなたは、家の中に、自分のスペースを持っていますか。

- ① 自分一人の部屋がある
- ② きょうだいと一緒に部屋がある
- ③ 特に自室はないが、自分のコーナーを設けてある
- ④ 特にない

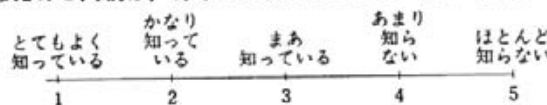
2) あなたが日曜に外出する時、行き先や帰宅時間など親に知らせていきますか。



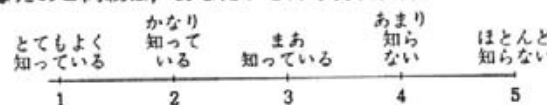
3) あなたのご両親は、あなたの成績や学習態度について、うるさい方ですか。



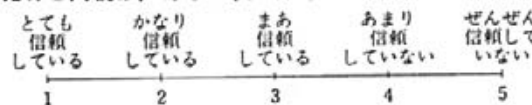
4) あなたのご両親は、あなたの友だちづき合い(人の名前やつき合い方など)をよく知っていますか。



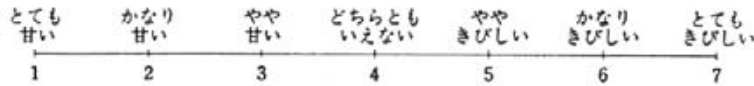
5) あなたのご両親は、あなたがどんな男女交際をしているか(していないか)よく知っていますか。



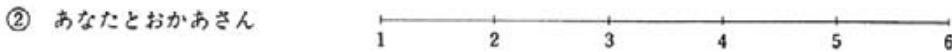
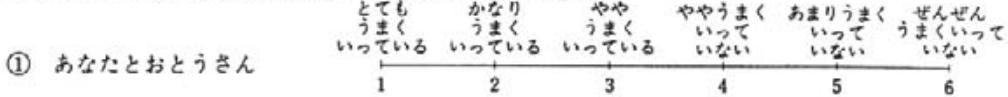
6) あなたのご両親は、あなた(子ども)のことをどのくらい信頼していると思いますか。



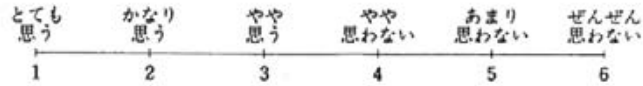
7) あなたのご両親のあなたに対するしつけは甘いほうだと思いますか。



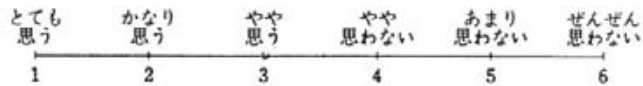
8) あなたとご両親との仲はうまくいっていると感じですか。



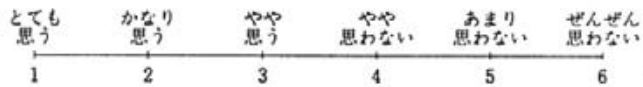
9) あなたが
男性の場合 あなたは大きくなったら、おとうさんのような生き方をしたいと思いますか。



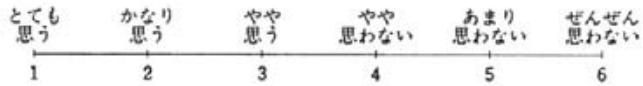
あなたが
女性の場合 あなたは将来、おとうさんのようなタイプの男性と結婚してみたいと思いま



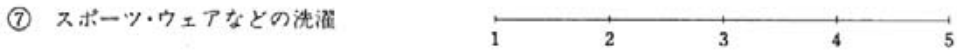
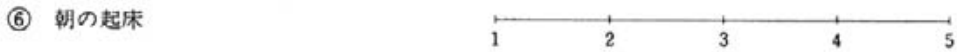
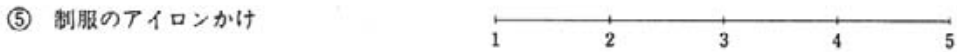
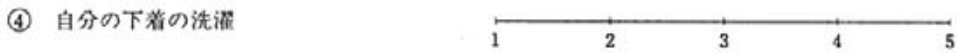
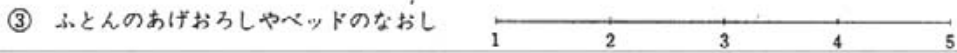
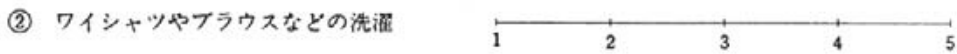
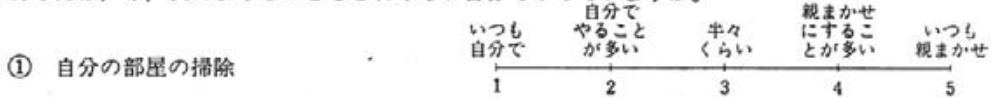
10) あなたが
男性の場合 あなたは将来、おかあさんのようなタイプの女性と結婚してみたいと思いま



あなたが
女性の場合 あなたは大きくなったら、おかあさんのような生き方をしたいと思いますか。



11) あなたは、今、次のようなことをどれぐらい自分でやっていますか。



⑧お弁当づくり(お弁当をもっていく人だけ)

いつも自分で	自分でやることが多い	半々くらい	親まかせにすることが多い	いつも親まかせ
1	2	3	4	5

12) あなたはおこづかいを、1ヵ月に平均どのくらいもらっていますか。(おひる代などは含めない)

万	千	百	円
□	□	□	

13) あなたは、自由に使えるお金が毎月、いくらぐらいあったらよいと思っていますか。

万	千	円ぐらい
□	□	

14) あなたは、アルバイトをしたことがありますか。

- | | | |
|-----------------|-----------------------------------|-----------------|
| ① 現在やっている | } $\xrightarrow{\text{それはいつですか}}$ | ① 学校のある時 |
| ② やったことがある | | ② 休日(夏休みや日曜日など) |
| ③ 1度もない(ほとんどない) | | ③ ①と②の両方 |

15) あなたは、次のような時に、アルバイトをしたいと思いますか。

	とてもしたい	かなりしたい	まあしたい	あまりしたくない	まったくしたくない	今バイトをしている
① 次の春・夏・冬休み	1	2	3	4	5	6
② 日曜日	1	2	3	4	5	6
③ 学校のある日の夕方や夜	1	2	3	4	5	6

5) 今度は異性とのつき合いについておたずねします。

1) あなたには、今好きな人(異性)がいますか。

- ① 今のところ関心のある相手がない
- ② 関心のある相手はいるが、とくにその人と個人的につき合いたいほどではない
- ③ 関心のある相手がいるが、個人的につき合いたい、片思いかそれに近い状態だ
- ④ 両思いの相手がいる、つき合っている

2) あなたは、今まで(わりと)好意を持っている相手(異性)をさそって、または、さそわれて

2人だけで次のようなことをしたことがありますか。

	なん度もある	4-5回ある	1-2回ある	1度もない
① 喫茶店でおしゃべりをする	1	2	3	4
② お誕生日にプレゼントをする	1	2	3	4
③ 手をつないだり、腕をくんだりして歩く	1	2	3	4
④ おたがいの持ち物を交換する	1	2	3	4
⑤ 夜中に長電話をする	1	2	3	4

	なん度も ある	4~5回 ある	1~2回 ある	1度も ない
⑥ 2人で個室喫茶や同伴喫茶へ行く	1	2	3	4
⑦ いっしょに大学へ入れるように2人で勉強をがんばる	1	2	3	4
⑧ 将来の生活設計を一生懸命に話しあう	1	2	3	4
⑨ 泊りがけで旅行に出かける	1	2	3	4
⑩ キスをする	1	2	3	4
⑪ ラブホテルへ行く	1	2	3	4

3) もし、今好きな人(両思い)ができたとしたら、あなたはその人と次のようなことをしたいと思いますか。(今つき合っている人がいる場合もお答えください)

	ぜひ したい	できれば したい	あまり したくない	ぜったい したくない
① 喫茶店でおしゃべりをする	1	2	3	4
② お誕生日にプレゼントをする	1	2	3	4
③ 手をつないだり腕をくんだりして歩く	1	2	3	4
④ おたがいの持ち物を交換する	1	2	3	4
⑤ 夜中に長電話をする	1	2	3	4
⑥ 2人で個室喫茶や同伴喫茶へ行く	1	2	3	4
⑦ いっしょに大学へ入れるように2人で勉強をがんばる	1	2	3	4
⑧ 将来の生活設計を一生懸命に話しあう	1	2	3	4
⑨ 泊りがけで旅行に出かける	1	2	3	4
⑩ キスをする	1	2	3	4
⑪ ラブホテルへ行く	1	2	3	4

6) 将来の結婚についておたずねします。

1) あなたが、将来結婚するとしたら、次のような条件をどれぐらい大事に考えますか。①~⑩について、1, 2, 3と大事に考える順番を3位までつけてください。

① 体が丈夫	<input type="text"/>	⑤ 頭がよい	<input type="text"/>	⑨ やさしい	<input type="text"/>
② 収入が多い	<input type="text"/>	⑥ 会社の上役から信頼されている	<input type="text"/>	⑩ 家事が好き	<input type="text"/>
③ やる気がある	<input type="text"/>	⑦ ルックスがよい	<input type="text"/>		
④ センスがよい	<input type="text"/>	⑧ スポーツが得意	<input type="text"/>		

2) あなたは将来、どのような結婚がしたいですか。

ぜったい 恋愛	できれば 恋愛	できれば 見合い	ぜったい 見合い
1	2	3	4

3) 結婚するとしたら、相手の年齢はどれがよいと思いますか。

ずっと年下	3~5才 年下	1~2才 年下	同年	1~2才 年上	3~5才 年上	ずっと年上
1	2	3	4	5	6	7

4) 結婚するとしたらとりあえず生活費が月にいくらぐらい必要だと思っていますか。

1ヵ月に

--	--

 万円ぐらいかかると思う

5) 結婚式の費用はどうしたいですか。

- ① 全部親に出してもらいたい
- ② 親が主に出すが、自分たちも少しは出したい
- ③ 親と自分たちが半々に
- ④ ほとんど自分たちのお金でやりたい
- ⑤ 全部自分たちのお金で(なければ式を簡素にして)やりたい

6) 結婚をしたら奥さんはどんな生活をしたらよいと思いますか。

結婚をしたら 家庭に入る	子どもが生ま れるまで働く	子育てを終え たらまた働く	ずっと仕事を 持ちつづける
1	2	3	4

7) 結婚費用が50万円しかなかったとします。その時あなたならどのような結婚式をやりたいですか。

1～3の中からひとつ選んでください。

- ① 親しい友だちをできるだけ招いて式をあげ、そのかわり新婚旅行はかんたんにする
- ② 二人きりで式をあげ余ったお金で外国へ新婚旅行に行く
- ③ 式をかんたんにして残ったお金でマンションの頭金にしたり家具を買ったりする

8) 新婚旅行に海外へ出かける人がふえています。しかしグアムや香港だと2人で30万、ハワイ60万、アメリカやヨーロッパは100万位かかります。あなたなら①～⑤のどのコースをとると思いますか。

- ① 無理をしてまで行く気はないから、国内の旅行をする
- ② グアムや香港ぐらいは行ってみたい
- ③ かなり無理しても、なんとかハワイぐらいは行きたい
- ④ そうとう無理しても、なんとかアメリカかヨーロッパへ行きたい
- ⑤ あまり新婚旅行へ行く気がない

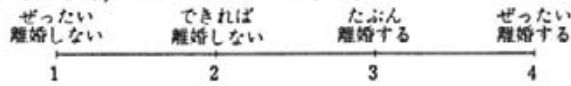
9) あなたは結婚したらどのような夫婦になりたいと思いますか。

- ① 夫唱婦随型で、夫がしっかりリードしている夫婦
- ② 夫婦ともに互いに頼りあっている夫婦
- ③ どちらかというとなんか妻の方がしっかりリードしている夫婦
- ④ それぞれが独立した生き方を尊重している夫婦

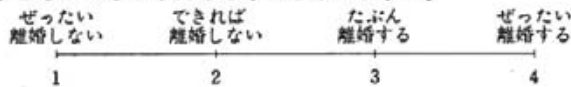
10) あなたのご両親は上の①～④の中のどのタイプに近いご夫婦ですか。

- ① ② ③ ④ (どこかに○をつける)

11) 結婚して、子どもが幼稚園に入るくらいに、相手とどうしても性格があわないと思うようになったとします。そんな時、あなたはどのようにしますか。



12) では、子どもがいなかったらどうだと思いますか。



13) あなたが、一度結婚に失敗しているとして、3才の子どものいる相手との結婚をどう思いますか。

- ① 相手をとっても好きなら、ためらわず結婚する
- ② 相手をとっても好きなら、できれば結婚する
- ③ 相手がとても好きでも、できれば結婚しないようにする
- ④ 相手がどんなに好きでも、ぜったいに結婚しない。

7) 次に、あなたのお気持やお考えをおたずねします。

1) 次のようなことは、日本では何年後に実現すると思いますか。

	5年後 ぐらい	10年後 ぐらい	20年後 ぐらい	50年後 ぐらい	絶対実現し ないだろう
① 国際線で女性が機長になることは	1	2	3	4	5
② 大企業の中で、課長や部長のポストにつく女性が珍しくなくなることは	1	2	3	4	5
③ 女性の小学校長が全小学校の半分位になることは	1	2	3	4	5
④ 女性の総理大臣がでることは	1	2	3	4	5
⑤ 大型トラックの女性ドライバーが珍しくなくなることは	1	2	3	4	5

2) あなたのご両親は、男性や女性の幸せな生き方についてどんな考えをお持ちでしょうか。次のような意見について最もあてはまる場所に○をつけてください。

① やはり女は、家庭に入って、家事・育児に専念するのが一番幸せである。

	とても そう思っている	わりと そう	まあ そう	あまり 思っていない	ぜんぜん 思っていない
a) おとうさん	1	2	3	4	5
b) おかあさん	1	2	3	4	5
c) あなた自身は	1	2	3	4	5

② 男子たるものは、あまり家庭にとらわれず仕事に打ち込むのが最も幸せな生き方である。

	とても そう思っている	わりと そう	まあ そう	あまり 思っていない	ぜんぜん 思っていない
a) おとうさん	1	2	3	4	5
b) おかあさん	1	2	3	4	5
c) あなた自身は	1	2	3	4	5

3) 最近の若いご夫婦は、家事の分担をどんな風にするのが一般的だと思いますか。

① ご主人が28才のサラリーマン、奥さんが25才の専業主婦で、まだ、子どもがいないとして想像してみてください。

	妻が ぜんぶをする	妻がほとんど 夫がたまに 手伝う	妻がだいたい するが夫も かなり手伝う	夫と妻が 同じくらい 分担する	夫が半分 以上 する	夫が ほとんどする
a) 朝食作り	1	2	3	4	5	6
b) 洗たく物を干す	1	2	3	4	5	6
c) 夕食のための買物	1	2	3	4	5	6
d) 夕食作り	1	2	3	4	5	6
e) 夕食後の茶わん洗い	1	2	3	4	5	6
f) 食後にお茶を入れる	1	2	3	4	5	6
g) 風呂の掃除	1	2	3	4	5	6

② それでは、同じ年齢(夫28才、妻25才)、2人とも先生で「共働き」だったらどうだと思いますか。

	妻が ぜんぶをする	妻がほとんど 夫がたまに 手伝う	妻がだいたい するが夫も かなり手伝う	夫と妻が 同じくらい 分担する	夫が半分 以上 する	夫が ほとんどする
a) 朝食作り	1	2	3	4	5	6
b) 洗たく物を干す	1	2	3	4	5	6
c) 夕食のための買物	1	2	3	4	5	6
d) 夕食作り	1	2	3	4	5	6
e) 夕食後の茶わん洗い	1	2	3	4	5	6
f) 食後にお茶を入れる	1	2	3	4	5	6
g) 風呂の掃除	1	2	3	4	5	6

③ あなたは、次のような家事の分担を「将来自分の家庭で」どうしたらよいと思っていますか。

	妻が ぜんぶをする	妻がほとんど 夫がたまに 手伝う	妻がだいたい するが夫も かなり手伝う	夫と妻が 同じくらい 分担する	夫が半分 以上 する	夫が ほとんどする
a) 朝食作り	1	2	3	4	5	6
b) 洗たく物を干す	1	2	3	4	5	6
c) 夕食のための買物	1	2	3	4	5	6
d) 夕食作り	1	2	3	4	5	6
e) 夕食後の茶わん洗い	1	2	3	4	5	6
f) 食後にお茶を入れる	1	2	3	4	5	6
g) 風呂の掃除	1	2	3	4	5	6

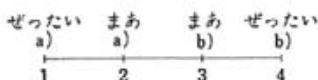
4) あなたは、次のような意見に賛成ですか。それとも反対ですか。

	とても 賛成	やや 賛成	半分 半分	やや 反対	とても 反対
① 好きになる人と結婚をする人とはかならずしも同じでなくてもよい	1	2	3	4	5
② 高校生としてはどんなに相手が好きになっても肉関係まで進まない方が望ましい	1	2	3	4	5

8 あなたは将来結婚をしたら、どんな暮らし方をしたいと思っていますか。あなたの気持ちに近いところに一カ所○をつけてください。

① 住まいは

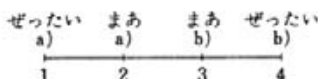
a) せまくても市街地にある便利なマンション



b) すこし不便でも郊外にある庭つきのゆったりとした家

② 親との関係

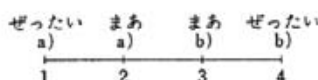
a) 若いうちは親とはぜったい別々にくらしたい



b) 親といっしょだと便利なこともあるのでいっしょでもかまわない

③ 近所のつきあい

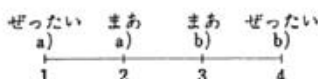
a) 出会ったらあいさつぐらいはするがそれ以上あまりかかわりたくない



b) できれば家族ぐるみで親しいつき合いをしていきたい

④ 子どもを生む時期

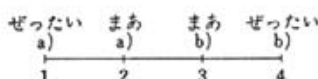
a) なるべく早く生んで若いうちに育てたい



b) 夫婦だけの生活をたのしみたいのでゆっくり作りたい

⑤ 子どもの数

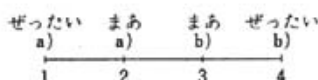
a) 経済が許せば子どもは4~5人欲しい



b) 経済的な心配はなくても子どもは1~2人でよい

⑥ 結婚したあとの2人の姓

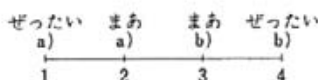
a) 男性の姓を名のるのが自然だ



b) 別にどちらの姓を名のってもかまわない

⑦ 結婚したあとの異性とのつき合い

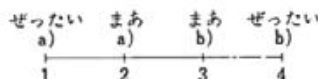
a) 異性間でのともだちづき合いは無理なのでつつしみたい



b) 異性間でも、友情は成り立つと思うので無理のない程度につき合う

⑧ 衣服の買い方

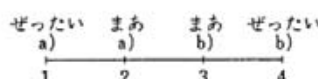
a) 服装は好みがあるのでそれぞれが別々に買う



b) ちいさい買物でも必ず2人で行って相談しながら買う

⑨ 夫の昼の食事

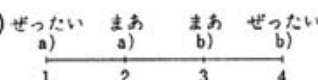
a) 好物を入れたお弁当を毎日作ってあげたい(作ってもらいたい)



b) 好きなものを外食してほしい(外食の方がよい)

⑩ 夫の家事手伝い(妻が家にいる場合)

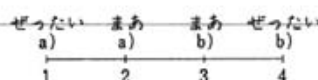
a) 夫がサラリーマンでも夕食後の片づけ位は手伝うのが当然だ



b) 夫がサラリーマンなら疲れて帰るのだから夕食後の片づけはしなくてもよい

⑪ 結婚後の親類づき合い

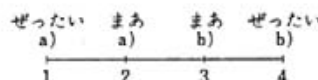
a) 年賀状を出す位で2人だけの生活を大事にしたい



b) 少しわずらわしくてもできるだけ親しく行き来をしていきたい

⑫ 子どもが生まれたら

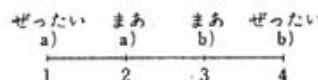
a) 子どものため当分は2人だけの外出を控えたい



b) 子どもを親や他人に預けても週に1度は2人だけで外出したい

⑬ 2人で街を歩く時は

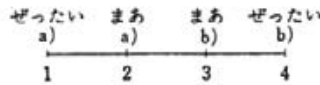
a) 子どもが生まれてもベアルックを着て腕をくんで歩きたい



b) 子どもが生まれてもベアルックを着たり、腕をくんだりしないだろう

⑭子どものしつけ

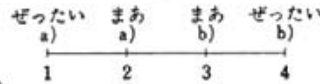
a) ちいさいうちは、できるだけ厳しくきちんとしつけたい



b) ちいさいうちは、なるべく自由(子どもの意志を尊重して)に育てたい

⑮妻が38度位の熱を出したら

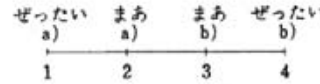
a) 夫は、会社を休み家にいて世話をしあげる(夫に世話をしてほしい)



b) 近所の人に世話をたのみ夫は会社へ行く(夫が会社へ行くのもしかない)

⑯日曜日、会社の上役から仕事を頼まれたら

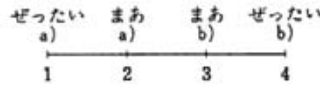
a) 日曜日は原則として、仕事をしないといつてことわる(ことわってもらおう)



b) 上役の頼みだから、仕事に出かける(夫が出かけるのもしかない)

⑰生活に多少のゆとりが生まれたら

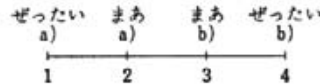
a) そのお金を趣味やスポーツなどに使って2人の生活を楽しまたい



b) そのお金では住宅の購入や将来のために貯金したい

⑱子どものしつけ

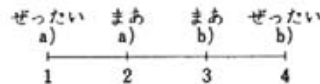
a) 夫は仕事に専念し、子どものしつけはだいたい妻がうけもつ



b) 子どものしつけは夫と妻とが同じようにうけもつ

⑲妻の生活

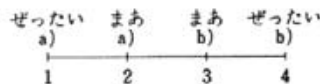
a) 夫がまあまあの収入があれば妻は家庭の中にいた方がよい



b) 夫にまあまあの収入があっても妻は働いた方がよい

⑳おたがいの呼び名

a) 子どもが生まれた後でも「○○ちゃん」などのニックネームで呼びたい



b) 子どもが生まれたら「ママ」「ママ」「あなた」などと呼びたい

9 最後あなたご自身のことをおたずねします。

1) 現在のあなたに近いところに○をつけてください。

	とても得意	かなり得意	やや得意	ふつう位	やや苦手	かなり苦手	とても苦手
① 英語の成績	1	2	3	4	5	6	7
② 数学の成績	1	2	3	4	5	6	7
③ スポーツ	1	2	3	4	5	6	7
④ がんばる力	1	2	3	4	5	6	7

2) 一生懸命にがんばったら、以下のような大学へ入れると思いますか。

	とても無理	かなり無理	やや無理	なんとかなるかも	多分入れると思う
① 東大や京大など	1	2	3	4	5
② 早大や慶応など	1	2	3	4	5

3) なるならないは別として、以下の仕事の中で、一生懸命にがんばってもなれないと思うものがあったら、○をつけてください。○はひとつもなくともたくさんあってもかまいません。

- ① 弁護士 ② 外交官 ③ 大学教授
④ 大会社の課長以上 ⑤ 医師 ⑥ 国会議員などの政治家

4) あなたは、ご自分を異性にもてる方だと思っていますか。

	とてももてる	かなりもてる	ややもてる	ややもてない	あまりもてない	ぜんぜんもてない
	1	2	3	4	5	6

長い間ありがとうございました。